はじめに

勉強方法

文章問題

①読む

――まず文章を読みましょう。

↓

②線を引く

――大切だと思うところにチェックをしましょう。

↓

③問題を解く

――文章の後についてある問題を解きましょう。

↓

④文章の解説動画を見る

――わからないところがあれば、ノートをとっておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

↓

⑤問題の解説動画を見る

――丸つけをしながら、まちがったところを理解しましょう。

（授業動画は《文章（本文）の解説 → 問題の解説》の順で展開されているので、①②の段階で難しく思うのであれば、まず④の解説を見てから問題を解いてください。その後、問題を解いてみましょう。）

↓

⑥復習

――文章を音読し、意味のわからないところがないか確認。

――また、まちがった問題、正解していたけれどよくわかっていなかった問題をもどって確認しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

知識問題

①知識の解説動画を見る

――問題を解く前に必ずチャプターーの解説を見てください。

――まちがった考え方で解いてしまうと、まちがった考え方のクセがついてしまうので、その前に動画で正しい考え方を理解してから解きましょう。

↓

②問題を解く

――考え方を身につけた後に、問題を解いてみましょう。

↓

③問題の解説動画を見る

――丸つけをしながら、まちがった問題の考え方を理解していきましょう。

↓

④復習

――まちがった問題をしっかり見直し、やり直しましょう。自分の考え方がまちがっていないか確認したり、覚えないと解けないところは暗記したりしてください。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　少年たちの夏①（物語文）……p.5
第二講　少年たちの夏②（物語文）……p.10
第三講　春の数えかた（説明文）……p.15
第四講　高層建築（こうそうけんちく）と五重のとう（説明文）……p.20
第五講　文の組み立て……p.26
第六講　詩……p.33
第七講　わすれ物・手紙（物語文）……p.41
第八講　新聞記事を読み比（くら）べよう……p.46
第九講　立場を決めて討論（とうろん）をしよう……p.50
第十講　古文、漢文を読んでみよう……p.56
第十一講　敬（けい）語……p.65
第十二講　注文の多い料理店①（物語文）……p.71
第十三講　注文の多い料理店②（物語文）……p.76
第十四講　ことばの教養……p.86
第十五講　熟（じゅく）語の構成、同音異義（いぎ）語、同訓異字……p.91
第十六講　ベートーベン（伝記）……p.99

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　短歌①（百人一首）……p.105
第十八講　短歌②、俳句（はいく）……p.115
第十九講　大造（だいぞう）じいさんとがん①（物語文）……p.126
第二十講　大造（だいぞう）じいさんとがん②（物語文）……p.134
第二十一講　宮沢賢治（みやざわけんじ）①（伝記）……p.141
第二十二講　宮沢賢治（みやざわけんじ）②（伝記）……p.146
第二十三講　人間の覚悟（かくご）（説明文）……p.151
第二十四講　花を食べる……p.157

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講・少年たちの夏①（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

　六月にはいってすぐの土曜日だった。学校からの帰り道、ぼくは①まもるに計画をうちあけた。

「いかだいうても、ぼろ木を組んだような、ちゃちなやつじゃないがぞ。もっと、ずっと、かっこええがぜよ」

　ぼくがそういうと、まもるは目をぱしぱしさせて顔をむけた。まもるが、興味をしめした証拠だった。すぐにのってきた。

「外海へでもでれそうな、たとえば船室があるとか、マストがあるとか、そんながかえ」

　まもるは、色白のひたいに、汗を光らせていた。やせっぽちのくせに、やたらと汗をかくやつだった。

「屋根ぐらいつけてもええねや」

「材料は、なにでつくるが」

　まもるは、ちょっと不安そうにぼくを見た。ぼくの頭の中では、すでにいかだはできあがっていた。名前さえ、もう決まっていた。名づけて、ドラゴンホース号だ。竜のような馬。雄々しく、たけだけしく、四万十川をとぶようにすべっていくのだ。それは、ぼくらの高知県が生んだ偉人であるところの、坂本竜馬の名前もひっかけている。これ以上の名前があるとは思えない。

「竹でつくるがよ」

「竹？」

「そうぜよ。ひとりのりじゃけん、ぼくとまもると一そうずつつくる」

「一そうずつ！」

　②まもるはそうさけんで、また目をぱしぱしさせた。

〈横山充男「少年たちの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「まもるに計画をうちあけた」とありますが、Ⓐいつ、Ⓘどこでうちあけたのですか。文中からそれぞれぬき出しなさい。

Ⓐ ［　　　　］

Ⓘ ［　　　　］

(2)　――線②「まもるはそうさけんで、また目をぱしぱしさせた」とありますが、このときのまもるの気持ちを表した言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　興奮（こうふん）　イ　興味（きょうみ）　ウ　失望　エ　感動

［　　］

(3)　この文章は、どんな場面について書かれていますか。それを説明した次の文の［　］にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

「ぼく」がまもるに［　］で、ひとり［　　　］ずつ［　　　］をつくる計画をうちあけた場面。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「①ちょっと、見ていこうか」

とまもるは、緊張した声でいった。

ぼくはどちらでもよかった。

まもるは、ぼくがはっきりとへんじをしないものだから、もじもじした。そのちょっとした間が、ぼくらをたかっさんのところへいけなくした。そばの竹林から、主造がでてきたのだ。

「たかっさん。こんなもんでええやろか」

②主造はそういいながら、けずった竹を五、六本さしだした。学校ではけっして見せない笑顔だったし、あかるい声だった。

「ああ、ちょうどいいよ。わるいね。いつもてつだってもらって」

「かまへん、かまへん。どうせ、ひまなんやし」

たかっさんは、竹の先をペンのようにして、画用紙に線をいれているらしい。それも太さのちがう竹先をいろいろつかって、どんな線になるかためしてるらしいのだ。まもるは、その技術をそばで見たいらしい。

「ちょっとだけ、いこう」

とまもるは、懇願するようにいった。

③その声を、主造がききのがさなかった。ぼくらのほうを見て、とたんに眉間にしわをよせた。

主造はぼくらとのあいだに、それ以上近づくことをゆるさない空気を張った。

〈横山　充男「少年たちの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ちょっと、見ていこうか」とありますが、まもるは何を「見ていこう」といっているのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　たかっさんに線のいれかたを学んでいる圭造の様子。

イ　そばの竹林で竹をけずっている圭造の様子。

ウ　たかっさんが竹先をつかってかいた絵。

エ　たかっさんが竹先をつかって線をかく技術。

□

(2)　――線②「圭造」とありますが、「圭造」はどんな人物ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「ぼく」やまもると同じ学校に通っているが、学校では人と親しもうとしない人物。

イ　「ぼく」やまもると同じ学校に通っていて、いつも笑顔であかるい人物。

ウ　ただ一人の友人であるたかっさんにおこられないようにと、おどおどしている人物。

エ　用事を言いつけるたかっさんに対して、いつもさからえない内気な人物。

□

(3)　――線③「その声を、圭造がききのがさなかった」とありますが、そのときの圭造の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　二人が来てくれたのでうれしく思っている。

イ　呼んでいない二人がいるので不機嫌(ふきげん)になっている。

ウ　ちょうど人手が足りていなかったので、安心している。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講●確認テスト

正しい送りがなを選びなさい。

1　みずから
ア　自　　イ　自ら
ウ　自から　　エ　自ずから

2　かならず
ア　必　　イ　必ず
ウ　必らず　　エ　必ならず

3　すくない
ア　少　　イ　少い
ウ　少ない　　エ　少くない

4　もっとも
ア　最　　イ　最も
ウ　最とも　　エ　最っとも

5　あらわれる
ア　現る　　イ　現れる
ウ　現われる　　エ　現らわれる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講 ・ 少年たちの夏②（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔友達と四万十川をいかだでくだる途中、「ぼく」は渦につっこんでいった。〕

一瞬、ふわっとうくような感じがして、どんと［A］がきた。ドラゴンホース号は、天に昇るみたいに頭を持ちあげ、それから水面にばしゃっとおちた。ぼくはひっしでしがみついた。ドラゴンホース号は、はげしくからだをふるわせて、いきなりしずかになった。ぼくとドラゴンホース号は、渦のそとにうかんでいたのだ。

息がはあはあしていた。その息の底から、なんだかめちゃくちゃうれしいものがこみあげてきた。

「おおおおっ」

渦をぬけたとたん、ぼくは声をあげた。安全を感じたとたんにあげる、恐怖の叫びだった。それはまた、［B］の雄叫びでもあった。心臓が破裂しそうにいたかった。ドラゴンホース号は、四万十川の川上に頭をむけていた。反転したわけだ。岬のさきで、びっくりした目でぼくを見ているまもると圭造がいた。

【「やったあ」

と、まもるがいった。

「ほっほお」

と圭造が手をたたいた。

四万十川の流れに、ドラゴンホースがゆっくりと川下に頭をむけはじめていた。

ぼくは、まだ息をはあはあさせながらいった。

「まもる。圭造。どうする。やるがか」

「やる！」

「やらいでか。やったろやんけ」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まもると圭造は、岬からすっとんでいった。】

〈横山(よこやま)充男(みつお)「少年たちの夏」より〉

(1) [A]・[B] に入る言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　よろこび　　イ　悲しみ　　ウ　発見

エ　不安　　オ　衝撃(しょうげき)

A [　　]　B [　　]

(2) ――線「いきなりしずかになった」とありますが、ドラゴンホース号がしずかになったのは、なぜですか。文中の言葉を使って答えなさい。

[　　　　]

---

(3) 【　】の部分は、どのような場面ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　まもると圭造が「ぼく」が無事に渦からぬけたことを大人に知らせようと走っていく場面。

イ　「ぼく」の様子にしげきを受けて、まもると圭造もいかだで渦の中へ入ろうとする場面。

ウ　早く「ぼく」のいるところへ行こうと、まもると圭造がドラゴンホース号を川下にむける場面。

エ　「ぼく」が渦からぬけたのを喜んで、まもると圭造が岬から川へ飛びこむ場面。

[　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

太陽が、ちょうど真上のところにあった。ぼくらは、三そうのドラゴンホースを見送ったあと、①灯台の下で昼ごはんにした。あんぱんだけだったけど、ぼくらは満足していた。水筒（すいとう）のお茶は、どんなジュースよりもおいしかった。

【「ぼくな、中学は高知市にいくけんど、［　A　］」

とつぜん、まもるがそんなことをいった。

「親の仕事をつぐのとちがうがか。歯医者は、金もうけできるがやろ」

「ぼくは、絵を描（か）きたい。歯医者は、おねえちゃんになってもろうたらええ」

「たかっさんみたいな、絵描きさんか」

「まもるも、いくんか。［　B　］」

と圭造（けいぞう）がつぶやいた。

さびしくなるなんて、圭造がいうとは思わなかった。

「こうちゃんは、どんなおとなになりたいが」

と、まもるがまじめな顔できいた。

「ぼくは、まだ決めちょらん」

「ほんなら、圭造は？」

「おれか。おれは、ちゃんとしたおとなになる」

「ちゃんとした？」

圭造は、さいごのパンのひと口をのみこんで、はずかしそうにいった。

「うん。なんしか、ちゃんとしたおとなや。ちゃんとした人間や」

ぼくは、圭造はいまでもちゃんとした人間だと思った。

「ちゃんとした人間か」

と、まもるはしみじみとつぶやいた。】

「圭造は……」

ちゃんとしているよといいかけて、②ぼくはことばをのみこんだ。

そんなこと、ぼくが決めることじゃない。

みゃあ！　と白いカモメが鳴き、ぼくらの上をとんでいった。

〈横山（よこやま）　充男（みつお）「少年たちの夏」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「灯台の下で昼ごはんにした」とありますが、このときの「ぼくら」の気持ちがわかる言葉を、六字でぬき出しなさい。

(2)　A・B に入る言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　歯医者にはならんかもしれん
イ　みんながんばってるな
ウ　おれひとり、さびしくなるな
エ　絵描きさんにはならんかもしれん

A

B

(3)　【　】の部分では、三人はどんな話をしていますか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

将来（しょうらい）□□□□□□になるかという話。

(4)　――線②「ぼくはことばをのみこんだ」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を使って答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講●確認（かくにん）テスト

送りがなのまちがっているものを選びなさい。

１　ア　起きる　イ　計る　ウ　当る　エ　表す

２　ア　新しい　イ　悲しい　ウ　楽しい　エ　美くしい

３　ア　断る　イ　省る　ウ　表す　エ　正す

４　ア　増える　イ　支える　ウ　交える　エ　営なむ

５　ア　断る　イ　導く　ウ　図る　エ　報る

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講・春の数えかた（説明文）

一　題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1　なぜ自然はこんなにうまくめぐっているのだろうか？　*生物学者にとっては当然興味(きょうみ)をそそられる問題だ。

2　今年は寒かったからサクラの開花はかなりおくれたが、暖(あたたか)い年にはふだんより早く花が咲(さ)く。［　A　］、寒い、暖いが開花の時期をきめていることは確(たし)かである。

3　［　B　］サクラは、冬の間からつぼみがふくらんでくる。その時期にはまだ寒いから、つぼみのふくらみは暖さによるものではない。そもそも暖くなってからつぼみをふくらませ始めたのでは間に合わない。

4　このときにもう、来年の花が作られはじめているのである。サクラの花は暑い夏に作られて、寒いときにふくらみ、暖くなって開くのだ。その*丹念(たんねん)な*用意周到(しゅうとう)さ！

5　いずれにせよ、植物はちゃんと季節を知っている。そして、一年のきまった時期に花を咲かすよう、厳密(げんみつ)なタイム・スケジュールが組まれている。

〈日高(ひだか)　敏隆(としたか)「春の数えかた」より〉

＊生物学者＝動物や植物などを研究する学者。
＊丹念＝心をこめてていねいにすること。
＊用意周到＝用意が十分にととのっていること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　この文章を次のように大きく三つに分けるとすると、どのように分けるのがよいですか。それぞれ、段落番号を答えなさい。

・一つ目（話題の提示）

・二つ目（くわしい説明）

・三つ目（まとめ）

(2)　A・B に入る接続語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　だから　**イ**　また　**ウ**　たとえば

エ　では　**オ**　けれど

A

B

(3)　次の一文を文中にもどすとすると、どの段落の最初にもどすのがよいですか。段落番号を答えなさい。

・じつはサクラが花の芽を作るのは、前年の夏である。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

1　①なぜ自然はこんなにうまくめぐっているのだろうか？　*生物学者にとっては当然興味をそそられる問題だ。

2　今年は寒かったから②サクラの開花はかなりおくれたが、暖い年にはふだんより早く花が咲く。だから、寒い、暖いが開花の時期をきめていることは確かである。

3　けれどサクラは、冬の間からつぼみがふくらんでくる。その時期にはまだ寒いから、つぼみのふくらみは暖さによるものではない。そもそも暖くなってからつぼみをふくらませ始めたのでは間に合わない。

4　じつはサクラが花の芽を作るのは、前年の夏である。このときにもう、来年の花が作られはじめているのである。サクラの花は暑い夏に作られて、寒いときにふくらみ、暖くなって開くのだ。③その*丹念な*用意周到さ！

5　いずれにせよ、植物はちゃんと季節を知っている。そして、一年のきまった時期に花を咲かすよう、厳密なタイム・スケジュールが組まれている。

〈日高　敏隆「春の数えかた」より〉

*生物学者＝動物や植物などを研究する学者。
*丹念＝心をこめてていねいにすること。
*用意周到＝用意が十分にととのっていること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「なぜ自然はこんなにうまくめぐっているのだろうか？」とありますが、この問いかけに対する答えを述べた次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

植物は［　　］を知っていて、厳密な［　　　　　　　　　　］が組まれているから。

(2) ――線②「サクラの開花」とありますが、「開花」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　サクラのつぼみは暖くなってからふくらみはじめる。

イ　開花の時期は暖いと早まるが、つぼみのふくらみには関係ない。

ウ　サクラのつぼみは寒い冬の間はふくらまない。

エ　開花の時期は、気温の高低によってきまるわけではない。

［　］

(3) ――線③「その丹念な用意周到さ！」とありますが、どのような点が「用意周到」なのですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

サクラは［　　］の花のために、［　　］の夏には［　　　］を作りはじめている点。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講・確認テスト

次の□に「不」「無」「非」「未」を入れて言葉を完成させなさい。

１　□色
ア　不　イ　無　ウ　非　エ　未

２　□常識
ア　不　イ　無　ウ　非　エ　未

３　□来
ア　不　イ　無　ウ　非　エ　未

４　□足
ア　不　イ　無　ウ　非　エ　未

５　□安
ア　不　イ　無　ウ　非　エ　未

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講・高層建築(こうそうけんちく)と五重のとう（説明文）

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 ①<u>日本で最古の五重のとう</u>は、奈良県(ならけん)の法隆寺(ほうりゅうじ)にあり、千三百年以上前のものといわれている。このように五重のとうの歴史は古いが、それが地しんや強風でたおれたという話はめったに聞かない。②<u>昔から伝えられた技術(ぎじゅつ)や方法</u>は、科学の発達した今日でも、意外に合理的なものである。では、五重のとうには、地しんや強風にたえるための、どんなひみつがかくされているのだろうか。

2 五重のとうは、木造(もくぞう)の建物である。ところで、自然のじゅ木は、やわらかくて、少し曲げたくらいでは折れない。この、折れないでしなうという性質(せいしつ)を、「しなやかだ」という。つまり、五重のとうの材料は、しなやかな木材である。

3 五重のとうには、木材の組み合わせ方、すなわち木組みにもくふうがある。とうの中心に、一階から五階まで通した太い柱があるが、それ以外は二つの階にわたって通してある柱はない。一階ごとに独立(どくりつ)の、しかもかなり複雑(ふくざつ)な木組みをつくって、ただ乗せてあるだけである。このように、各階が固く結び付いていないので、外から力がかかったときも、つぎ目がこわれることなく、建物全体がしなう。すなわち、五重のとうは、しなやかなつくりをもつ建物である。

4 さらに、五重のとうには、横にはり出した屋根を支(ささ)える仕組みにもひみつがある。各階の柱は、上層(じょうそう)からの重さと屋根の重さを支えているが、そのつくりが片仮名(かたかな)の「イ」に似(に)ていて、かたむいたてんびんのような形になっている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しかも、柱のつぎ目が、ちょうどてんびんの支(し)点(てん)のようにゆるく結び付いているために、屋根は、鳥が羽ばたきをするように、ゆっくり上下にゆれるのである。これも、一種のしなやかさである。

〈高木(たかぎ)　隆司(りゅうじ)「高層建築(けんちく)と五重のとう」より〉

---

(1)　——線①「日本で最古の五重のとう」は、どれぐらい前のものですか。文中からぬき出しなさい。

［　　　　］

(2)　——線②「昔から伝えられた技術や方法」とありますが、この文章では五重のとうのどんな点に注目していますか。［　　］㋐～㋓にあてはまる言葉をそれぞれ、文中からぬき出しなさい。

［㋐］のひみつ
［㋑］のひみつ
［㋒］のひみつ
→ 性質(せいしつ)［㋓］

㋐［　　　　］
㋑［　　　　］
㋒［　　　　］
㋓［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) 3段落の中で、筆者が特に注目しているのはどんなところですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大部分の柱が、複雑な木組みになっているところ。

イ 大部分の柱が、一階ごとに独立しているところ。

ウ とうの中心に、一階から五階まで通した太い柱があるところ。

エ 五重のとうの各階が、固く結びついているところ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目

５　ところで、建物全体がしなったり、屋根がゆれたりすると、木組みには、どうしてもわずかなすき間ができる。すると、木組みのあちこちで木材どうしがこすれ合って、ギシギシときしむことになる。①五重のとうがたおれない理由は、実はこのゆれやすさと、きしみにあるのである。

６　五重のとうに、地しんや風などのはかいの力がかかって、ゆれ始めたときのことを考えてみよう。とうのしなやかさと屋根のつくりのために、ゆれの勢(いきお)いがとうの各部分に伝わっていく。ゆれの勢いは、建物全体としては大きくても、それがとうの各部分に分けられたとき、各部分のゆれの勢いは小さくなる。［　A　］、このゆれは、木組みのきしみのために、勢いが弱められてしまう。これは、ぶらんこの支点(してん)にきしみがあると、ぶらんこがすぐ止まってしまうのと、ちょうど同じ理由である。［　B　］、五重のとうでは、地しんや強風のときでも、木材が折れたり、木組みが外れるようなことは起きないのである。

７　毎秒五十メートルもの風がふく台風の日に、自分が建てた五重のとうの中に入ってみた人の話をしょうかいしよう。ギーギー、バリバリと木材のきしむ音がし、今にもたおれてしまうのではないかと思うほど、建物全体が弓なりにかたむく。中心の高い柱は、上のはしが大きく円をえがき、根もとのところでは、土台とこすれ合って、ゴボゴボとお湯がにえたぎるような音をたてるのだそうだ。しかし、とうも、この人も無事だった。

８　全体がしなやかさをもち、木組みにきしみが生じることが、地しんや強風に対する強さを生む――②これが五重のとうのひみつである。

〈高木(たかぎ)　隆司(りゅうじ)「高層建築(こうそうけんちく)と五重のとう」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「五重のとうがたおれない理由」を説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

地しんや風などの［　　　　　］がかかっても、［　　　］のために勢いが弱められるから。

(2) Ａ・Ｂにあてはまる言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　ところで　イ　しかし
ウ　こうして　エ　さらに

Ａ［　］　Ｂ［　］

(3) ――線②「これ」は、何をさしていますか。文中からさがし、初めと終わりの五字を答えなさい。（、や。をふくまない。）

［　　　　　］～［　　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講・確認テスト

次の□に「不」「無」「非」「未」を入れて言葉を完成させなさい。

1 □可能
ア 不　イ 無　ウ 非　エ 未

2 □解決
ア 不　イ 無　ウ 非　エ 未

3 □理解
ア 不　イ 無　ウ 非　エ 未

4 □服
ア 不　イ 無　ウ 非　エ 未

5 □日常
ア 不　イ 無　ウ 非　エ 未

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講・文の組み立て

一、主語と述語（じゅつご）

文は、大きく分けて【主語】と【述語】から成り立っている。

【主語】

「だれが（は）」・「何が（は）」に当たる言葉。

【述語】

「どうする」・「どんなだ」・「何だ」に当たる言葉。

主語	述語（文末）
～は	どうする
～が	どんなだ
～も	何だ

例

兄が　行く。「だれが」＋「どうする」

花が　きれいだ。「何が」＋「どんなだ」

父は　会社員だ。「だれは」＋「何だ」

1 次の文の主語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) アこの　イはさみは　ウよく　エ切れる。

(2) ア真夏の　イ太陽の　ウ光が　エ照りつける。

(3) アここには　イ毎年　ウわたり鳥が　エ来る。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2 次の文の述語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) ア 日本は　イ 海に　ウ 囲まれた　エ 国です。　□

(2) ア 妹は　イ 来年　ウ 小学生に　エ なる。　□

(3) ア ここに　イ あったのか、　ウ 自転車の　エ かぎは。　□

3 例にならって、次の文の主語と述語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、主語・述語がない場合は、×と答えなさい。

(1) ア 中学生の　イ 兄は　ウ サッカー部の　エ キャプテンだ。

主語 □　述語 □

(2) ア お祭りの　イ 行列が　ウ ゆっくりと　エ 通り過（す）ぎる。

主語 □　述語 □

(3) ア かぎを　イ なくして　ウ 夜まで　エ 家に　オ 入れなかった。

主語 □　述語 □

(4) ア ぼくが　イ いちばん　ウ 好きな　エ 教科は　オ 国語です。

主語 □　述語 □

(5) ア とっても　イ おいしいね、　ウ この　エ ケーキは。

主語 □　述語 □

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4 次の文の主語・述語をそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、主語・述語がない場合は、×と答えなさい。

(1) ア父は　イ毎朝　ウ電車で　エ新聞を　オ読む。

主語 □　述語 □

(2) ア雪山で　イ見た　ウ女の　エ顔は　オ白かった。

主語 □　述語 □

(3) ア風で　イ飛ばされないよう　ウテントに　エロープを　オ張(は)った。

主語 □　述語 □

(4) アこの　イ町には　ウ大きな　エ図書館が　オない。

主語 □　述語 □

(5) ア駅前の　イ白い　ウ建物は　エ高校の　オ校舎(こうしゃ)です。

主語 □　述語 □

(6) ア落ち葉を　イふみながら　ウ山道を　エゆっくり　オ歩いた。

主語 □　述語 □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

２、修飾語（しゅうしょく）

「どんな」・「どのように」のように、文の中でほかの言葉をくわしく説明する働きを持つ。

例　赤い　花が　さく。

花が　きれいに　さく。

ほかにも、「いつ」・「何を」・「何の」・「何で」などに当たる言葉も修飾語である。

---

1 次の文から修飾語をすべて選び、記号で答えなさい。

(1) ア屋根に　イうっすらと　ウ白い　エ雪が　オ積もった。

(2) ア白い　イ馬が　ウ草原を　エさっそうと　オかける。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2 次の――線の言葉が修飾している言葉をぬき出しなさい。

(1)
① えのぐで、大きな　犬を　かく。
② えのぐで、大きく　犬を　かく。

(2)
① 明日まで　わり引きが　ある。
② 明日までの　わり引きが　ある。

(3)
① 元気な　顔を　見せる。
② 元気に　顔を　見せる。

---

3 次の文の□の言葉が修飾している言葉をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 海岸で　ア きれいな　イ 貝殻（かいがら）を　ウ 一つ　エ 拾った。

(2) 川で　ア つかまえた　イ 魚を　ウ 学校で　エ 飼（か）う。

(3) ちょうど　ア 始業の　イ ベルが　ウ 鳴った　エ ところだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4 次の文の□の言葉を修飾している言葉をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) ア山道の　イ大きな　ウ木の　［下で］　エ雨宿りを　した。　□

(2) アすぐに　イまどの　ウ近くの　エ席が　［空いた］。　□

(3) ア休日の　イ昼間の　ウ学校は　エとても　［静かだった］。　□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講・確認テスト

次の□に「性」「然」「的」「化」を入れて熟語を作りなさい。

１　病□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

２　緑□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

３　当□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

４　個□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

５　温暖□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・詩

一、詩の種類

① 形式上の分類

・定型詩…きまった音数をくり返す詩。

・自由詩…一行の音数にきまりがなく、自由な形で書かれた詩。

② 用語上の分類

・文語詩…昔の言葉（文語）で書かれた詩。

・口語詩…現在使われている言葉（口語）で書かれた詩。

２、詩の主な表現技法

① 比喩……ものごとをほかのものにたとえる技法。

② 擬人法……人間でないものを人間のようにたとえる技法。

③ くり返し…同じ言葉をくり返す技法。

④ 倒置法……言葉の順序を逆にして、意味を強める技法。

⑤ 体言止め…行の終わりを名詞（ものやことがらの名前）で止める技法。

⑥ 呼びかけ表現

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ふるさと

室生(むろう)　犀星(さいせい)

雪あたたかくとけにけり
しとしとしとと融(と)けゆけり
ひとりつつしみふかく
やわらかく
木の芽に息をふきかけり
もえよ
［ a ］のうすみどり
もえよ
［ a ］のうすみどり

---

(1)　この詩のあ形式と、い使われている言葉（用語）を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　定型詩　　イ　自由詩
ウ　文語詩　　エ　口語(こうご)詩

あ［　］　い［　］

(2)　二か所の［ a ］に共通して入る言葉を、詩の中から三字以内でさがし、ぬき出しなさい。

［　］［　］［　］

(3)　この詩は何をよんだ詩ですか。［　］にあてはまる漢字一字を、それぞれ考えて答えなさい。

［　］から［　］への移(うつ)り変わり。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

時

堀口大學

よろこびの時は短かい
夢よりもなおも儚ない
束の間もこれより長い

よろこびを時が持ち去る
かなしみを時が置き去る

かくてこの<u>心に残る</u>
かなしみが心にしみる
何時までも　明日も明後日も

(1)　この詩に用いられている表現技法を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　体言止め　　イ　くり返し
ウ　倒置法　　　エ　比喩

(2)　――線「心に残る」とありますが、何が心に残るのですか。詩の中から五字以内でさがし、ぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

準備（じゅんび）

高階（たかしな）　杞一（きいち）

1
［Ａ］のではない
①準備をしているのだ
飛び立っていくための

2
［Ｂ］のではない
②測（はか）ろうとしているのだ
風の向きや速さを

3
初めての位置
初めての高さを
こどもたちよ

4
おそれてはいけない
この世のどんなものもみな
「初めて」から出発するのだから

5
落ちることにより
初めてほんとうの高さがわかる
うかぶことにより
初めて
雲の悲しみがわかる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　A・B に入る言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　怒(おこ)っている　　イ　見ている

ウ　待っている　　エ　笑っている

A［　　］　B［　　］

(2)　――線①と――線②で使われている表現技法(ひょうげんぎほう)を答えなさい。

［　　　　］

(3)　第3連と第4連の説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　同じような表現をならべることで、まとまりごとにリズムを出している。

イ　同じ言葉をくり返すことで、「初めて」の大切さを強調している。

ウ　行末を名詞(めいし)で終えることで、出発の風景に余情(よじょう)をあたえている。

エ　伝えたい相手を明らかにし、「初めて」をおそれてはいけないというメッセージを発している。

［　　］［　　］

(4)　この詩の中から、擬人法(ぎじんほう)が使われている行を一か所さがし、ぬき出しなさい。

［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

忘(わす)れもの

高田(たかだ)　敏子(としこ)

1

入道雲にのって
夏休みはいってしまった
「サヨナラ」のかわりに
すばらしい夕立をふりまいて

2

けさ　空はまっさお
木々の葉の一枚一枚(いちまいいちまい)が
あたらしい光とあいさつをかわしている

3

だがキミ！　夏休みよ
もう一度　もどってこないかな
忘れものをとりにさ

4

迷子(まいご)のセミ
さびしそうな麦わら帽子(ぼうし)
それから　ぼくの耳に
くっついてはなれない波の音

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線「『サヨナラ』のかわりに」とありますが、どのようなことが起きたのですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、詩の中からぬき出しなさい。

□□□の終わりの日に、□□がふったということ。

(2)　第**4**連の説明としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　夏休みが置いていった「忘れもの」を表している。

イ　夏休みといっしょに去っていった夏の思い出を表している。

ウ　人間でないものを人間のようにたとえて表現（ひょうげん）している。

エ　よびかけの表現を使って、作者の気持ちをうったえている。

□　□

(3)　この詩の主題としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　たくさんの思い出ができた夏休みのすばらしさ。

イ　夏休みが終わるころの空や木々などの風景の美しさ。

ウ　夏休みが終わることへのどうしようもないさびしさ。

エ　夏休みがもどってこないことへのいらだち。

□

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・確認テスト

次の□に「性」「然」「的」「化」を入れて熟語を作りなさい。

１　強□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

２　一本□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

３　自□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

４　映画□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

５　感受□
ア　性　イ　然　ウ　的　エ　化

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　・わすれ物・手紙（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

恵(めぐみ)の家は、団地の東の住宅地(じゅうたくち)にあります。純子(じゅんこ)の家は、団地の西外れにならぶ棟(とう)です。すぐ先の十字路が、この団地のほぼ中心ですが、十字路を向こうへわたって、まっすぐ五、六分ほど行くと、純子の家に着くのです。

「早く行かなくちゃ。リボン―フラワーの作り方、最初から教わりたいものね。」

独(ひと)り言(ごと)を言いながらかけ出し、くぼみにたまった雨水をとびこえた恵の足は、一しゅん、①すくみました。

【右手から十字路へと、勢(いきお)いよく走ってきた白い自動車。そして、目の先の横断(おうだん)歩道へちょこちょこと出ていく、二才ほどの男の子。

恵が男の子をかかえこんでとびのくのと同時に、十字路の中ほどで、自動車が、はげしいブレーキの音を立てました。】

「あぶない！　小さい子とは、ちゃんと手をつないでいてくれよっ、お姉ちゃんのくせに。」

運転手が、顔をつき出してどなりました。

（この子のお姉ちゃんじゃないわよ、わたし。）

言い返したい気もしましたが、どなられたはら立ちよりも②もっと熱いものがこみ上げて、くちびるがふるえていました。

「あぶなかったのよ、ぼく。ほらね、あの信号が赤いときは、ぜったいに、わたっていっちゃだめなのよ。」

ひと息に言ってから、恵は、少し気持ちを静めて、男の子に話しかけました。

〈古世古(こせこ)和子(かずこ)「わすれ物」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この文章は、だれが、どこへ行こうとしていたときの話ですか。

だれが [　　　]

どこへ [　　　]

(2) ――線①「すくみました」とありますが、どういうことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうしようかとまようこと。

イ こわさで、動けないこと。

ウ こわさで、ふるえること。

エ こわさから、後ろへさがること。

[　]

(3) 【　】の部分では何が起きたのですか。[　]にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

男の子が勢いよく走ってきた [　　　　　] にひかれそうになったので、恵が [　　　　　　　　　　] ことで男の子を助けた。

(4) ――線②「もっと熱いもの」とはどんなものですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 危険（きけん）な出来事から受けたしょうげき。

イ 男の子に対してのいかり。

ウ 男の子をほうっておく親に対してのいかり。

エ どなった運転手に対してのうらみ。

[　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「今日は八月十五日だ。終戦記念日だ。」

おじいちゃんは、手に持った手紙に目をやったまま言った。

「終戦記念日ってのは、戦争が終わった日のことなんだ。おじいちゃんは、日本が第二次世界大戦を終えた日、九州の病院にいたんだ。兵隊として中国の南部にいたんだけど、大砲のたまのかけらがかたに当たって大けがをして、中国から、小倉の陸軍病院に送り帰されたんだ。それから三か月後に、戦争が終わった。」

大けがをして、中国から日本へ送り帰されることが決まった日、同じ戦場にいた友達が、①ないしょで、手紙をおじいちゃんに預け、

「もし、ぼくが生きて帰れなかったら、この手紙をぼくの両親にわたしてくれよ。」

と言ったそうだった。

戦場から、家族や友達に出す手紙は、すべて、どんなことが書いてあるのかを調べられるのだと、おじいちゃんはタケオに説明してくれた。

「戦争に反対するようなこととか、いくじのないことを書いてある手紙は、取り上げられてしまうから、兵隊たちは、手紙には、本当のことは書けないんだ。」

その友達は、自分が生きて帰れないだろうと予感して、ありのままのことを書いた手紙、おじいちゃんにそっと預けたのだった。

もし、②いろんな事情できみの両親にわたせなかったら、どうしたらいいのかと、おじいちゃんが、その友達に聞くと、

「そのときは、きみが読んでからすててくれ。」

友達は、そう言ったそうだった。

「いろんな事情って、どんなこと？」

と、タケオは聞いた。

例えば、自分のけがが治らなくて、このまま死んでしまったり、友達の両親と会えないまま、何年もたってしまったりしたときだと、おじいちゃんは言った。

〈宮本　輝「手紙」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) おじいちゃんがタケオに戦争の話をしたのはいつですか。

(2) ――線①「ないしょで」手紙をわたしたのはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　戦場から手紙を出すことは許(ゆる)されなかったから。

イ　戦場から手紙を出すには許可(きょか)が必要だったから。

ウ　戦場から個人的(こじんてき)な手紙は出せなかったから。

エ　戦場からの手紙はすべて調べられたから。

(3) 友達は手紙にどのようなことを書いていましたか。文中から八字でぬき出しなさい。

(4) 友達はどのような気持ちでその手紙を書いたのですか。文中の言葉を使って答えなさい。

(5) ――線②「いろんな事情」の内容(ないよう)がよく表れている一文を文中からさがし、初めの五字を答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講・確認テスト

次の中から主語を選びなさい。

１　僕(ぼく)の(ア)　かっている(イ)　ネコは(ウ)　かわいい。(エ)

２　君こそ(ア)　この　クラスの(イ)　学級委員長に(ウ)　ふさわしい。(エ)

３　その(ア)　本は(イ)　とても(ウ)　おもしろいよ。(エ)

４　昨日は(ア)　だいじょうぶだった、(イ)　きみの(ウ)　お姉さんは。(エ)

５　白い(ア)　花が(イ)　もうすぐ(ウ)　しおれてしまいそうだ。(エ)

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講 ● 新聞記事を読み比べよう

新聞記事の構成

①トップ記事　第一面の目だつところに置かれた、最も大切な記事。
②見出し　ひと目でわかるように、記事の内容を短くまとめた言葉。
③リード　本文の内容を短い文章でまとめたもの。
④本　文　できごとの内容がくわしく書かれた、記事の文章。
⑤写真・図・解説　記事の内容をよりくわしく伝えるためのもの。

同じ話題をあつかった記事でも、見出しの内容や、記事・図・写真などの大きさや配置により、印象がことなる。

一題目　次の二つの新聞記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

・A社の新聞記事

富士入山料 残された課題

試験期間終了　徴収金3412万円

山梨、静岡両県が協力し、富士山で十日間、入山料の試験徴収を行った。予想を上回る賛同があり、計約3412万円集まる結果となったが、本格的導入に向けて残された課題は多い。

今回の試験期間では、登山者を対象に一人千円の協力金を求め、大勢の協力を得る結果となったが、金額に関しては「ちょうど良い」「もっと高く」など、様々な声が寄せられている。また、徴収金の具体的な使い道や、入山料を任意あるいは強制にするのか、などについても発表されておらず、検討すべき課題は多く残されている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

・B社の新聞記事

富士山協力金 3412万円

［　　　　］

世界文化遺産(いさん)の富士山で、試験的に行われた「富士山保全(ほぜん)協力金」は、十日間で３万４３２７人が計約３４１２万円を支払(しはら)い、予想を大幅(おおはば)に上回る結果となった。

富士山では「環境(かんきょう)保全の資金(しきん)確保」を目的とし、入山料として、山頂(さんちょう)を目指す登山者を対象に、一人千円の支払いを呼(よ)びかけた。支払いは任意であったが、予想以上に関心が高く、多くの協力者を得る結果となった。

山梨、静岡両県では、本格的導入に向けて、登山者からの意見を参考に、今後いっそう力を入れたいと語っている。

〈出題者書きおろしによる〉

---

(1)　――線「山梨、静岡両県が協力し」から始まる部分は、新聞記事の構成上、どのようによばれていますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　見出し
イ　コラム
ウ　リード
エ　本文

［　　］

(2)　B社の新聞記事の［　　］にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　富士山　世界文化遺産登録決定
イ　予想上回る　３万４０００人が協力
ウ　徴収金　３４１２万円集まる

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　B社の新聞記事に写真をのせるとしたら、どのような写真がよいですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　入山料を支払う登山者たちの写真。
イ　富士山の美しさがわかる遠景写真。
ウ　富士山のゴミを拾う登山者の写真。

□

(4)　二つの記事を読み比べたとき、内容的にどのようなちがいがありますか。そのちがいをまとめた次の文の（　　）㋐・㋑にあてはまる言葉を、新聞記事の中の言葉を使ってそれぞれ答えなさい。

　二つの記事はともに、富士山の入山料の徴収を試験的に行ったことについて書かれているが、A社の新聞記事は（㋐）ことを中心に、B社の新聞記事は（㋑）ことを中心に記事をまとめている。

㋐

㋑

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講・確認（かくにん）テスト

次の中から述語を選びなさい。

1　ア今日は　イ楽しみにしていた　ウぼくの　エ誕生日（たんじょうび）だ。

2　ア私（わたし）は　イ青い　ウ花を　エ摘（つ）んで帰った。

3　アとても　イ気になるよ、　ウ誰（だれ）が　エ来たのか。

4　ア交差点で　イぼくは　ウ友だちと　エ待ち合わせた。

5　ア私は　イまちがって　ウ電話を　エかけてしまった。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講・立場を決めて討論をしよう

一題目 次の討論の一部を読んで、あとの問いに答えましょう。

司会 これから討論を始めます。論題は「　　　」です。この討論は黒板に書いた順序で進めます。

それではまず、賛成グループから主張してください。

賛成 ぼくたちは、論題に賛成です。賛成の理由は三つです。一つ目は、くり返し使えて環境に良いからです。二つ目は、飲み物の温度を保てるからです。三つ目は、自分に合った量を用意できるからです。以上の理由から、ぼくたちは論題に賛成します。

反対 わたしたちは、論題に反対です。その理由は三つです。一つ目は、水とうは空になっても重くてかさばるからです。二つ目は、清潔に保つために手間がかかるからです。三つ目は、こわしたりなくしたりすることがあるからです。したがって、わたしたちは論題に反対です。

〈作戦タイム〉相手への質問を考える。

司会 反対グループは、賛成グループの理由に対して、質問してください。

反対 水とうはくり返し使えて環境に良いという理由を挙げていましたが、こわれたらごみになってしまいます。一方、ペットボトルは、リサイクルできます。環境に良いことは水とうだけの良さではないと思いますが、どうですか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

賛成　七月一日の新聞によると、ペットボトルにはリサイクルされていないものが十万トン以上あるそうです。くり返し使うことのできる水とうのほうが環境に良いと思います。……

〈教科書書きおろしによる〉

---

(1)　[　　]にあてはまる今回の討論の論題としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきである。

イ　校外学習に飲み物を持っていくときの容器は、自由にすべきである。

ウ　校外学習に飲み物を持っていくときは、ペットボトルを使うべきである。

[　　]

(2)　――線「水とうはくり返し使えて環境に良いという理由を挙げていましたが」とありますが、これと同じ立場から挙げられているほかの理由を二つぬき出しましょう。

[　　]

[　　]

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　賛成グループが自分たちの主張の正しさを示すために、理由のうらづけとなる具体的な事実を述べている一文をぬき出し、初めの五字を答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章は、「校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきである。」という論題（ろんだい）に対する西村さんの意見文です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。**

わたしは、「校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきである。」というろん題に賛成です。

賛成する理由は三つあります。

一つ目は、水とうを使うことは、かん境に良いからです。例えば、ペットボトルは、中身を飲んだ後はごみになってしまいます。それに対して、水とうはくり返し何度でも使えます。

二つ目は、水とうには、飲み物の温度を保てるものがあるからです。冷たい飲み物は冷たいまま、温かい飲み物は温かいまま持っていくことができます。

三つ目は、水とうは、一人一人もようがちがうので、ほかの人の飲み物とまちがえることがないからです。

□、わたしは、校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきだと考えます。

〈教科書書きおろしによる〉

(1)　西村さんは、「校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきである。」という論題に対して、どのような立場から意見を述べていますか。二字で答えましょう。

(2)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　しかし　**イ**　したがって

ウ　また　**エ**　なぜなら

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) 西村さんが意見の理由として述べていることは、どんなことですか。三つ答えましょう。

(4) 「校外学習に飲み物を持っていくときは、水とうを使うべきである。」という論題に対し、西村さんとは反対の立場に立って意見文を書きましょう。ただし、「わたし（ぼく）は、このろん題に～です。」という文で書き出すこと。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講・確認(かくにん)テスト

次の二重傍線(ぼうせん)部が修飾(しゅうしょく)している箇所(かしょ)を選びなさい。

1　私(わたし)は(ア)　両手で　たくさんの(イ)　花を(ウ)　持った(エ)。

2　友人は(ア)　いつも　弟の(イ)　面倒(めんどう)を(ウ)　見ている(エ)。

3　ぼくの(ア)　学校の　休み時間は(イ)　毎日(ウ)　決まっている(エ)。

4　怒(おこ)った　友人が(ア)　いきなり(イ)　ボールを(ウ)　投げた(エ)。

5　少し　ややこしい(ア)　話を(イ)　友人が　わかりやすく(ウ)　話してくれた(エ)。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・古文、漢文を読んでみよう

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

今は昔、竹取(たけとり)の①おきなといふ(う)者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ(ず)のことに使ひ(い)けり。名をば、さぬきのみやつことなむ(ん)いひ(い)ける。

その竹の中に、もと光る竹なむ(ん)一筋(ひとすじ)ありける。あやしがりて、寄(よ)りて見るに、つつの中光りたり。それを見れば、三寸(さんずん)ばかりなる人、いとうつくしう(しゅう)てゐ(い)たり。

〈「竹取物語」より〉

〈意味〉

昔、竹取のおじいさんという人がいました。野山に分け入って竹を切り取っては、いろいろなことに使っていました。名前を、「さぬきのみやつこ」といいました。

ある日のこと、竹林の中に、根元の光っている竹が一本ありました。おじいさんが②不思議に思って近よって見てみると、竹の中が光っています。中を見ると、手のひらほどの小さな人が、たいへんかわいらしい様子ですわっています。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「おきな」とは、どういう意味ですか。〈意味〉の文章中からぬき出しましょう。

(2)　竹取のおじいさんの名前は何ですか。

(3)　――線②竹取のおじいさんが不思議に思ったのは、どんなことでしたか。〈意味〉の文章中の言葉を使って答えましょう。

---

(4)　この文章の内容としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　竹取のおじいさんの願いがかない、竹林の中で子どもをさずかることができた。

イ　竹取のおじいさんは、竹の中にすわっている手のひらくらいの大きさの人を見つけた。

ウ　竹取のおじいさんは、手のひらくらいの大きさの人を、こっそり竹の中で育てていた。

(5)　この文章をふくむ物語がもとになってできたお話を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　一寸法師（いっすんぼうし）

イ　浦島太郎（うらしまたろう）

ウ　かぐやひめ

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）のかねの声、
諸行無常（しょぎょうむじょう）のひびきあり。
娑羅双樹（しゃらそうじゅ）の花の色、
①盛者必衰（じょうしゃひっすい）のことわりをあらは（わ）す。
おごれる人も久しからず、
ただ春の夜（よ）の夢のごとし。
たけき者もつひ（い）にはほろびぬ、
ひとへ（え）に風の前のちりに同じ。

〈「平家（へいけ）物語」より〉

〈意味〉

祇園精舎という寺のかねの音は、②全てのものはうつり変わっていくものだという真理を、ひびきの中にこめています。

娑羅双樹という花の色は、今は勢いのある人でも必ずおとろえるという真理を表しています。

おごり高ぶっている人でも、ずっとそのままでいることはできません。ちょうど、短くてはかない春の夜の夢のようなものです。

勇ましく強い者も、最後にはほろんでしまいます。それは全く、風にふき飛ばされていくちりのようなものなのです。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「盛者必衰のことわり」とはどういうことですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　強い人の勢いはずっと変わらないということ。

イ　勢いがある人もいつかはおとろえるということ。

ウ　勢いのある人は今を大切にしているということ。

(2)　――線②「全てのものはうつり変わっていくものだ」とありますが、このことをどんなものにたとえて表していますか。〈意味〉の文章中から二つ、五字と十三字でぬき出しましょう。

(3)　この古文の特徴（ちょう）としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　語りかけるような言葉で親しみやすさを表している。

イ　ひらがなだけを使って分かりやすく説明している。

ウ　七音・五音を基本とした独特（どくとく）のリズムがある。

(4)　「平家物語」の説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　実際（じっさい）にあった戦いなどをもとにして書かれた物語である。

イ　作者が身近な出来事について思ったことを書いている。

ウ　昔から伝わる伝説をもとにした作り話である。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

　春はあけぼの。やうやう(ようよう)白くなりゆく山際(やまぎわ)、少し明(あ)かりて、紫(むらさき)だちたる雲の細くたなびきたる。

　夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ(お)、ほたるの多く飛びちがひ(い)たる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行(ゆ)くもをかし(お)。雨など降(ふ)るもをかし(お)。

〈清少納言(せいしょうなごん)「枕草子(まくらのそうし)」より〉

〈意味〉

　春はなんといっても明け方。だんだんとあたりが①<u>白(しら)んで</u>、山のすぐ上の空が少し明るくなって、紫がかった雲が細く②<u>たなびいている</u>様子。

　夏は夜。月が出ていればもちろんよい。やみ夜でも、ほたるがたくさん飛びかっている様子。また、ほんの一つ二つ、ほのかに光って飛んでいくのも③<u>よい</u>。雨などがふるのも、またよい。

〈教科書書きおろしによる〉

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　作者がよいと思っている、春の時間帯を答えましょう。

(2)　――線①「白んで」とありますが、どうなるということですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　空がどんどん白くなっているということ。
イ　夜が明けて、空が明るくなるということ。
ウ　月が出て、白い光を放っていること。

(3)　――線②「たなびいている」様子を表しているものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　空全体に厚くたちこめている。
イ　横に尾(お)を引いたようにうかんでいる。
ウ　小さく細切れになって散っている。

(4)　――線③「よい」という意味の言葉を古文の中からぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次の漢詩を読んで、あとの問いに答えましょう。

春暁（しゅんぎょう）　孟浩然（もうこうねん）

春眠　暁（あかつき）を　覚えず
処処（しょしょ）に　①啼鳥（ていちょう）を　聞く
夜来（やらい）　風雨（ふうう）の　声（こえ）
花（はな）　落（お）つる　こと　知（し）る　多少（たしょう）

〈意味〉
春の明け方

春のねむりのここちよさに、
②夜が明けたのも気がつかなかった。
あちこちから、
鳥の鳴き声が聞こえてくる。
昨夜、③風雨の音が聞こえていた。
花は、いったい、どれくらい
落ちたのであろうか。

〈〈意味〉は教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　この漢詩は、どんな季節の、どんな時間帯のことを表していますか。

(2)　――線①「啼鳥」とは何のことですか。〈意味〉の中からぬき出しましょう。

(3)　――線②「夜が明けたのも気がつかなかった」のはなぜですか。〈意味〉の中の言葉を使って答えましょう。

(4)　――線③「風雨の音」が聞こえたことで、作者はどのようなことを気にかけていますか。〈意味〉の中の言葉を使って答えましょう。

(5)　この漢詩の特徴（ちょう）としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　春の明け方のここちよさを、周りから聞こえてくる音を通して表現している。

イ　春の明け方のここちよさを、目で見た花の色のあざやかさで表現している。

ウ　春の明け方のここちよさを、はだに感じるあたたかさをもとに表現している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・確認テスト

次の二重傍線部が修飾している箇所を選びなさい。

1　ア あの　青い　イ 車は　ウ ぼくの　エ 父親のものだ。

2　校庭に　ア 赤い　イ チューリップを　ウ みんなで　エ 植えた。

3　私の　ア 父は　イ あの　大きい　ウ ビルを　エ 設計した。

4　ア 友だちと　イ けんかした　ぼくは　とぼとぼ　ウ 家に　エ 帰った。

5　青い　ア 服の　イ 女性が　ウ 私の　エ 姉だ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講・敬語

◆敬語の種類◆

① **尊敬語**…話し相手や、話題になっている人に敬意を表すため、その人に関わることを高めて言う言い方。＝主語は目上の人

・「お――になる」「ご――になる」という形を使う。

例　お話しになる　ご使用になる

・「れる」「られる」を使う。

例　行かれる　述べられる

・特別な言葉を使う。

例　おっしゃる　ごらんになる
めしあがる　いらっしゃる

② **謙譲語**…話し相手や、話題になっている人に敬意を表すため、動きのおよぶ相手を高めたり、自分や身内に関わることをへりくだらせたりして言う言い方。＝主語は自分、または身内

・「お――する」「ご――する」という形を使う。

例　お答えする　ご用意する

・特別な言葉を使う。

例　参る　うかがう　拝見する
申しあげる

〈特別な言葉〉

	尊敬語	謙譲語
行く	いらっしゃる	まいる・参上する
いう	おっしゃる	申す・申しあげる
食う	めしあがる	いただく
する	なさる	いたす
見る	ごらんになる	拝見する

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③ **丁寧語**…話し相手に敬意を表すため、丁寧に言う言い方。
・特別な言葉を使う。
例　ございます　よろしい
・文末に「です」「ます」をつける。
例　本です。　歩きます。

一　次の文の――線の敬語の種類をあとの**ア**～**ウ**から選び、記号で答えましょう。

① 先生が手紙をごらんになる。

② わたしは図書館にいます。

③ 先生に母の話を申しあげる。

ア　尊敬語
イ　謙譲語
ウ　丁寧語

二　次の――線の言葉は、**ア**　尊敬語、**イ**　謙譲語、**ウ**　丁寧語、のどれに当たりますか。記号で答えましょう。

① 父も参加したいと申しております。

② あなたはごらんになりましたか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　ここにはたくさんの本があります。

④　おかけになってお待ちください。

⑤　お部屋のおそうじは、わたくしがいたしました。

三　次の文の——線の敬語の種類をあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①　どこか　まちがっていると思います。

②　明日は　十時までに　おこしください。

③　手品を　ひとつ　お目にかけましょう。

ア　尊敬語
イ　謙譲語
ウ　丁寧語

四　次の文の——線の言葉を「お（ご）〜になる」という言い方を使って、尊敬語に直しなさい。

①　山に登る。

②　家に帰った。

③　よく利用した。

五　次の文の——線の言葉を「お〜する」という言い方を使って、謙譲語に直しなさい。

①　注文を聞く。

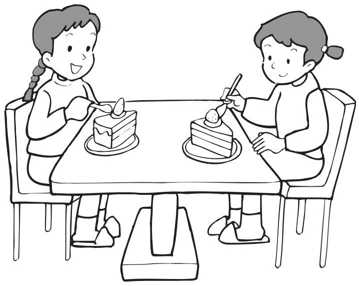
②　かさを貸（か）した。

③　部屋をさがす。

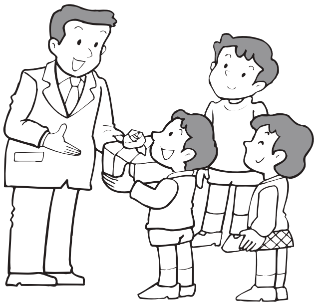
©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

六　次の——線の言葉を、A・Bの場面に合った敬語に直して書きましょう。

A



B



Aの場面

(1) 食べる

① お客様が、ケーキを［　　］。

② わたしも、ケーキを［　　］。

Bの場面

(2) わたす

・わたしたちは、先生に記念品を［　　］。

七　次の文の——線の言葉と同じ種類の敬語が使われている文をあとのア～ウから選び、記号で答えましょう。

① お帰りになるときは、わすれ物にご注意ください。

ア　あなたのお父様がお話しになりました。

イ　わたしがみなさんにお話ししましょう。

ウ　ぼくにはとてもお話しできません。

［　　］

② 先生がみなさんに話されると思います。

ア　かぜをひいたので、妹は会場に来られないと思います。

イ　ぼくは時間どおりに会場に来られると思います。

ウ　明日、先ぱいがたが会場に来られると思います。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

八　次の文の――線の言葉を丁寧語に書き直しましょう。

① 発表するときは、大きな声ではっきり言う。

② これは、初めて聞いた話だ。

③ すばらしいえんそうに、心から感動した。

九　次の**ア**～**ウ**の文から、敬語が正しく使われているものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア　おじさんがぼくにおたずねする。

イ　妹が、ぼくにおたずねになる。

ウ　近いうちにぼくの方からおたずねします。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講●確認（かくにん）テスト

次の中から尊敬（そんけい）語を選びなさい。

1　ア　お話しする　イ　お読みになる
　　ウ　いただく　エ　まいる

2　ア　ごらんになる　イ　拝見（はいけん）する
　　ウ　見ます　エ　見る

3　ア　お読みする　イ　おうかがいする
　　ウ　さしあげる　エ　来られる

4　ア　さしあげる　イ　お持ちする
　　ウ　おっしゃる　エ　申す

5　ア　お伝えする　イ　お話しになる
　　ウ　お聞きする　エ　お守りする

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講・注文の多い料理店①（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

二人のわかいしんしが、すっかりイギリスの兵隊の形をして、ぴかぴかする鉄ぽうをかついで、白くまのような犬を二ひき連れて、だいぶ山おくの、木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを言いながら、歩いておりました。

「ぜんたい、①ここらの山はけしからんね。鳥もけものも一ぴきもいやがらん。何でもかまわないから、早く②タンタアーンと、やってみたいもんだなあ。」

「しかの黄色な横っぱらなんぞに、二、三発お見まい申したら、ずいぶん痛快（つうかい）だろうねえ。③くるくる回って、それからどたっとたおれるだろうねえ。」

それは④だいぶの山おくでした。案内してきた専門（せんもん）の鉄ぽううちも、ちょっとまごついて、どこかへ行ってしまったくらいの山おくでした。

それに、あんまり山がものすごいので、その白くまのような犬が、二ひきいっしょに目まいを起こして、しばらくうなって、それからあわをはいて死んでしまいました。

「⑤実にぼくは、二千四百円の損害だ。」

と、一人のしんしが、その犬のまぶたを、ちょっと返してみて言いました。

「ぼくは二千八百円の損害だ。」

と、も一人が、くやしそうに、頭を曲げて言いました。

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ここらの山はけしからんね」とありますが、なぜそう思ったのですか。

(2)　――線②「タンタアーン」とは、何の音を表した言葉ですか。

(3)　――線③「くるくる回って、……たおれるだろうねえ」の会話は、どんな感じで話しているように読み取れますか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　動物の動きのはげしさにあきれている。
イ　動物を鉄ぽうでたおすことを楽しみにしている。
ウ　動物をうつことの重大さを思ってきん張している。

(4)　――線④「だいぶの」を別の表現でくり返している部分を文章中からぬき出し、初めと終わりの五字を答えましょう。

〜

(5)　――線⑤「実にぼくは、二千四百円の損害だ」から分かることとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　犬の命よりも、お金のほうを大切に思っていること。
イ　もうけようと思って犬にお金を使っていること。
ウ　金持ちであることをじまんしていること。

(6)　二人の「しんし」について述べたものとしてふさわしいものを次の中から全て選び、記号で答えましょう。

ア　りょうし。　イ　遊びでかりに来ている。
ウ　動物の命をそまつにあつかって平気でいる。
エ　鉄ぽうのうち方がうまい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

そしてガラスの開き戸がたって、そこに金文字でこう書いてありました。

【どなたもどうかお入りください。①決してごえんりょはありません。】

二人はそこで、ひどく喜んで言いました。

「こいつはどうだ。やっぱり世の中はうまくできてるねえ。今日一日なんぎしたけれど、今度はこんないいこともある。このうちは料理店だけれども、ただでごちそうするんだぜ。」

「どうもそうらしい。決してごえんりょはありませんというのはその意味だ。」

二人は戸をおして、中へ入りました。そこはすぐろう下になっていました。そのガラス戸のうら側には、金文字でこうなっていました。

【ことに太ったおかたやわかいおかたは、大かんげいいたします。】

二人は大かんげいというので、もう大喜びです。

「君、ぼくらは大かんげいに当たっているのだ。」

「②ぼくらは両方かねてるから。」

［　　］ろう下を進んでいきますと、今度は水色のペンキぬりの戸がありました。

「どうも変なうちだ。どうしてこんなにたくさん戸があるのだろう。」

「③これはロシア式だ。寒いとこや山の中はみんなこうさ。」

そして二人はその戸を開けようとしますと、上に黄色な字でこう書いてありました。

【当軒（とうけん）は④注文の多い料理店ですから、どうかそこはご承知ください。】

「なかなかはやってるんだ。こんな山の中で。」

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「決してごえんりょはありません」という言葉を、二人のしんしはどのように理解したのですか。文章中から九字でぬき出しましょう。

(2)　――線②「ぼくらは両方かねてるから」とは、何と何をかねているという意味ですか。

(3)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ざんざん　　イ　しんしん
ウ　ずんずん　　エ　ばらばら

(4)　――線③の言葉には、このしんしのどんな性格が表れていますか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　料理店の主人をかばおうとするやさしい性格。
イ　外国にあこがれる夢見がちな性格。
ウ　知ったかぶりをするみえっぱりな性格。
エ　他人の意見に反対するひねくれた性格。

(5)　――線④「注文の多い料理店」という意味を、二人のしんしはどのように理解したのですか。文章中から九字でぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講・確認テスト

次の中から謙譲語を選びなさい。

1
ア　ごらんになる　イ　話される
ウ　お食べになる　エ　お聞きする

2
ア　お教えする　イ　お持ちになる
ウ　おいでになる　エ　お話しになる

3
ア　めしあがる　イ　おっしゃる
ウ　拝見する　エ　お休みになる

4
ア　ご質問なさる　イ　ご案内する
ウ　めしあがる　エ　ございます

5
ア　お出かけになる　イ　持たれる
ウ　ごらんになる　エ　さしあげる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・注文の多い料理店②（物語文）

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

①【どうかぼうしと外とうとくつをおとりください。】

「どうだ、取るか。」

「しかたない、取ろう。確かによっぽどえらい人なんだ。おくに来ているのは。」

二人はぼうしとオーバコートをくぎにかけ、くつをぬいでペタペタ歩いて戸の中に入りました。

戸のうら側には、

②【ネクタイピン、カフスボタン、眼鏡、さいふ、その他金物類、ことにとがったものは、みんなここに置いてください。】

と書いてありました。戸のすぐ横には、黒ぬりのりっぱな金庫も、ちゃんと口を開けて置いてありました。かぎまでそえてあったのです。

「ははあ、何かの料理に電気を使うとみえるね。金気のものはあぶない。ことにとがったものはあぶないと、こういうんだろう。」

「そうだろう。してみると、かんじょうは帰りにここではらうのだろうか。」

「どうもそうらしい。」

「そうだ。きっと。」

二人は眼鏡を外したり、カフスボタンを取ったり、みんな金庫の中に入れて、パチンとじょうをかけました。

少し行きますとまた戸があって、その前にガラスのつぼが一つありました。戸にはこう書いてありました。

【つぼの中のクリームを顔や手足にすっかりぬってください。】

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

見ると確かにつぼの中のものは牛乳（ぎゅうにゅう）のクリームでした。

A「クリームをぬれというのはどういうんだ。」

B「これはね、外が非常に寒いだろう。部屋の中があんまりあたたかいとひびが切れるから、その予防なんだ。どうもおくには、よほどえらい人が来ている。こんなとこで、案外ぼくらは、貴（き）族（ぞく）と近づきになるかもしれないよ。」

二人はつぼのクリームを顔にぬって手にぬって、それからくつ下をぬいで足にぬりました。それでもまだ残っていましたから、それは二人ともめいめいこっそり顔へぬるふりをしながら食べました。

それから大急ぎで戸を開けますと、そのうら側には、

【クリームをよくぬりましたか、耳にもよくぬりましたか。】

と書いてあって、小さなクリームのつぼがここにも置いてありました。

C「そうそう、ぼくは耳にはぬらなかった。あぶなく耳にひびを切らすとこだった。ここの主人は実に用意周とうだね。」

D「ああ、細かいとこまでよく気がつくよ。ところで、ぼくは早く何か食べたいんだが、どうも、こう、どこまでもろう下じゃしかたないね。」

すると、すぐその前に次の戸がありました。

【料理はもうすぐできます。十五分とお待たせはいたしません。すぐ食べられます。早くあなたの頭にびんの中のこう水をよくふりかけてください。】

そして戸の前には、金ぴかのこう水のびんが置いてありました。

二人はそのこう水を、頭へパチャパチャふりかけました。

ところが、そのこう水は、どうもすのようなにおいがするのでした。

E「このこう水は変にすくさい。どうしたんだろう。」

F「まちがえたんだ。下女がかぜでもひいてまちが

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

えて入れたんだ。」

二人は戸を開けて中に入りました。

戸のうら側には、大きな字でこう書いてありました。

【いろいろ③注文が多くてうるさかったでしょう。お気の毒でした。もうこれだけです。どうか、体中に、つぼの中の塩をたくさんよくもみこんでください。】

なるほどりっぱな青い瀬戸（せと）の塩つぼは置いてありましたが、今度という今度は、二人ともぎょっとして、④おたがいにクリームをたくさんぬった顔を見合わせました。

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

---

(1) ――線①・②の注文を読んで、二人はなぜそうしなければならないと考えましたか。それぞれあとの**ア**～**エ**から、ふさわしくないものを選び、記号で答えましょう。ただし、一つとは限りません。

① 【どうかぼうしと外とうとくつをおとりください。】

ア 食事をするのに、ぼうしと外とうとくつは必要ないから。

イ 料理店の主人が、ぼうしも外とうもくつもきらいだから。

ウ えらい人が来ているのに、ぼうしや外とうやくつを身につけているのは失礼だから。

エ ぼうしと外とうとくつをとると、料理がおいしく感じられるから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

②【ネクタイピン、……みんなここに置いてください。】

ア　食事をするのに、金物類は必要ないから。

イ　料理に電気を使うので、金物類はあぶないから。

ウ　帰りにここでお金をはらうので、さいふも置いていけばよいから。

エ　えらい人が来ているので、とがったものを持っているとあやしまれるから。

(2)　A～Fの言葉からは、二人のどんな気持ちが分かりますか。次の中からもっともふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えましょう。ただし、同じ記号を二度以上使ってもかまいません。

ア　あれ？　何かおかしい。

イ　細やかな心配りがありがたい。

ウ　いったいいつ料理が食べられるのだろう。

エ　何もおかしくはない。えらい人に会えるかもしれないぞ。

オ　きっと何かのまちがいだ。気にすることはない。

カ　気味が悪いからもう帰りたい。

キ　何だか楽しそうなことだなあ。

A　　B　　C

D　　E　　F

(3)　――線③「注文」は、だれがだれにしているのですか。Aは自分で考え、Bは本文からぬき出して答えましょう。

Aが

Bに

注文している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4)　――線④「おたがいにクリームをたくさんぬった顔を見合わせました」とありますが、なぜですか。次の［　］あ～うにあてはまる言葉をあとのア～エからそれぞれ選び、記号で答えましょう。

戸に書かれた文を読んで、今度という今度は二人とも［あ］とした。今まで、料理を［い］ためにいろいろ準備させられていると思っていたけれど、もしかすると自分たちが［う］ためだったのかもしれないと、やっと気づいたからだ。

ア　ほっ　　**イ**　ぎょっ
ウ　食べられる　　**エ**　食べる

あ［　］
い［　］
う［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

「どうもおかしいぜ。」

「ぼくもおかしいと思う。」

「たくさんの注文というのは、向こうがこっちへ注文してるんだよ。」

「だからさ、西洋料理店というのは、ぼくの考えるところでは、西洋料理を、来た人に食べさせるのではなくて、来た人を西洋料理にして、食べてやるうちと、こういうことなんだ。①これは、その、つ、つ、つ、つまり、ぼ、ぼ、ぼ、ぼくらが……。」

がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。

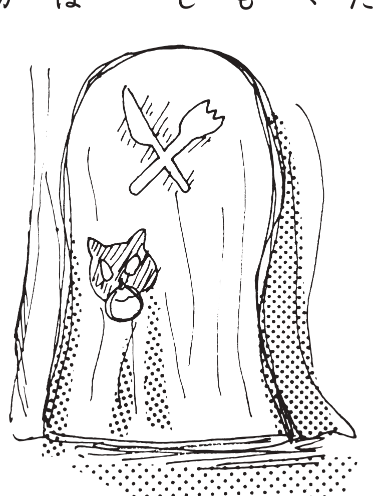
「その、ぼ、ぼくらが、……うわあ。」

がたがたがたがたふるえだして、もうものが言えませんでした。

「にげ……。」

がたがたしながら、一人のしんしは後ろの戸をおそうとしましたが、どうです、戸はもう一分も動きませんでした。

おくの方にはまだ一枚（まい）戸があって、大きなかぎあなが二つ付き、銀色のホークとナイフの形が切り出してあって、



【いや、わざわざご苦労です。たいへんけっこうにできました。さあさあ、②おなかにお入りください。】

と書いてありました。おまけに、かぎあなからは、［　　］二つの青い目玉がこっちをのぞいています。

「うわあ。」③がたがたがたがた。

「うわあ。」がたがたがたがた。

二人は泣きだしました。

すると、戸の中では、こそこそこんなことを言っています。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「だめだよ。④もう気がついたよ。塩をもみこまないようだよ。」

「あたりまえさ。⑤親分の書きようがまずいんだ。あすこへ、いろいろ注文が多くてうるさかったでしょう、お気の毒でしたなんて、⑥まぬけたことを書いたもんだ。」

「どっちでもいいよ。どうせ⑦ぼくらには、ほねも分けてくれやしないんだ。」

「それはそうだ。けれども、もしここへあいつらが入ってこなかったら、それはぼくらの責任だぜ。」

「よぼうか、よぼう。おい、お客さんがた、早くいらっしゃい。いらっしゃい。いらっしゃい。お皿もあらってありますし、菜っ葉ももうよく塩でもんでおきました。あとは、あなたがたと、菜っ葉をうまく取り合わせて、真っ白なお皿にのせるだけです。早くいらっしゃい。」

「へい、いらっしゃい、いらっしゃい。それともサラドはおきらいですか。そんならこれから火をおこしてフライにしてあげましょうか。とにかく早くいらっしゃい。」

二人はあんまり心をいためたために、顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり、おたがいにその顔を見合わせ、ぶるぶるふるえ、声もなく泣きました。

中では、フッフッと笑って、またさけんでいます。

「いらっしゃい、いらっしゃい。そんなに泣いては、せっかくのクリームが流れるじゃありませんか。⑧へい、ただいま。じき持ってまいります。⑨さあ、早くいらっしゃい。」

〈宮沢賢治（みやざわけんじ）「注文の多い料理店」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「これは、その、……ぼくらが……」と言葉がつまっているのはなぜですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　自分たちが大変な立場にあることに気づき、とてもおそろしくなったから。

イ　いったいどんなものを食べさせられるか分からないと、とても不安になったから。

ウ　相手が近づいてくるのが分かり、だんだんといかりがこみ上げてきたから。

(2)　――線②「おなか」には二つの意味がふくまれています。それぞれ「なか」の意味がよく分かるように答えましょう。

(3)　□にもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　うろうろ　**イ**　きょろきょろ

ウ　ひょろひょろ　**エ**　ちょろちょろ

(4)　――線③「がたがたがた」の表現について述べたものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　ふるえるときの音が大きいことを表している。

イ　泣きながらふるえている様子がよく分かる。

ウ　とてもはげしくふるえている様子がよく分かる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線④「もう気がついたよ」とありますが、どんなことに気がついたと言っているのですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　そろそろ料理を食べさせてもらえるということ。

イ　すぐ近くに「親分」がいるということ。

ウ　自分たちが食べられてしまうということ。

(6)　――線⑤「親分」、⑦「ぼくら」とありますが、「ぼくら」は、「親分」に対し、何に当たるのですか。漢字二字で答えましょう。

(7)　――線⑥「まぬけたこと」とありますが、「ぼくら」もまぬけたことを言っているところがあります。その文を二つぬき出しましょう。

(8)　二人のしんしの絶望（ぜつぼう）的な様子を、たとえを使って表現しているところがあります。その部分をぬき出しましょう。

(9)　――線⑧・⑨は、それぞれだれに対して言った言葉ですか。

⑧

⑨

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講・確認テスト

次の中から類義語を選びなさい。

1　興味
ア　寒心　イ　関心
ウ　感心　エ　希望

2　準備
ア　用意　イ　心配
ウ　備品　エ　標準

3　向上
ア　上部　イ　進行
ウ　進歩　エ　上段

4　不安
ア　安心　イ　心配
ウ　安全　エ　不信

5　期待
ア　期日　イ　活気
ウ　大切　エ　希望

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講・ことばの教養

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

＊いっぱいやりながら、列車時刻表(じこくひょう)を熟読(じゅくどく)するという風流人の随筆(ずいひつ)を読んだこともある。つい読みふけって時のたつのを忘(わす)れる、という。人間、さまざまな趣味(しゅみ)がある。

そういう話に比(くら)べると、辞書を読むのは、はるかに正統的(せいとうてき)で、むしろ常識的(じょうしきてき)すぎて気がひけるくらいだ。そもそも字引きなどと言って、引くものと決めてしまっているのが①おかしい。

辞書を道具と考え、必要なときにだけちょっと使い、あとは放(ほ)ったらかしにして置くのは②心なき人のことである。そういう辞書が本当に役立つと考えるのはすこし虫がよすぎる。人間だって頼(たの)みごとのあるときだけやってくるような＊手合(てあい)を友だちとは言うまい。ふだん用はないが、どうしているか、とたずねてくれるようであってこそ、付き合いがあると言える。

辞書は引くものと割(わ)り切っている実用派(じつようは)はしらない語ばかりを相手にする。それでは親しみもわかない道理だ。どんな辞書にも日常よく使われることばが入っていて、こまかい説明がついているけれども、実用派はそんなところを見ることがない。せっかくの宝(たから)が眠(ねむ)ったままである。もったいない。

辞書のおもしろさは、わかり切っていると思っていることばの項(こう)をていねいに読むことにある。そこをのみこまないと辞書とは仲良しになれない。

〈外山(とやま)　滋比古(しげひこ)「ことばの教養」より〉

＊いっぱいやる＝お酒を飲むこと。

＊手合＝連中。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「おかしい」とありますが、どのようなところが「おかしい」のですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

□□のことを□□□と呼んで、引くものと決めてしまっているところ。

(2)　――線②「心なき人」とは、ここではどのような人ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　辞書を読むような常識的な人。
イ　お酒をのみながら、時刻表を読む人。
ウ　辞書を必要なときにしか引かない人。
エ　辞書を放ったらかしてまったく使わない人。

□

(3)　この文章で筆者が最も述べたかったことは、何ですか。文章中から二文でぬき出し、初めと終わりの四字を答えなさい。（、や。も一字と数えます。）

初め　□□□□
終わり　□□□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

＊いっぱいやりながら、列車時刻表(じこくひょう)を熟読(じゅくどく)するという風流人の随筆(ずいひつ)を読んだこともある。つい読みふけって時のたつのを忘(わす)れる、という。人間、さまざまな趣味(しゅみ)がある。

そういう話に比(くら)べると、辞書を読むのは、はるかに正統的(せいとうてき)で、むしろ常識的(じょうしきてき)すぎて気がひけるくらいだ。そもそも字引きなどと言って、引くものと決めてしまっているのがおかしい。

辞書を道具と考え、必要なときにだけちょっと使い、あとは放(ほう)ったらかしにして置くのは心なき人のことである。そういう辞書が本当に役立つと考えるのはすこし虫がよすぎる。人間だって①頼(たの)みごとのあるときだけやってくるような＊手合(てあい)を友だちとは言うまい。ふだん用はないが、どうしているか、とたずねてくれるようであってこそ、付き合いがあると言える。

辞書は引くものと割(わ)り切っている実用派(じつようは)はしらない語ばかりを相手にする。それでは親しみもわかない道理だ。どんな辞書にも日常よく使われることばが入っていて、こまかい説明がついているけれども、実用派はそんなところを見ることがない。せっかくの②宝(たから)が眠(ねむ)ったままである。もったいない。

辞書のおもしろさは、わかり切っていると思っていることばの項(こう)をていねいに読むことにある。そこをのみこまないと辞書とは仲良しになれない。

〈外山(とやま)　滋比古(しげひこ)「ことばの教養」より〉

＊いっぱいやる＝お酒を飲むこと。

＊手合＝連中。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「頼みごとのあるときだけやってくる」とありますが、これは辞書のどのような使い方をたとえたものですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

辞書を［　　］と考えて、必要なときだけ使い、それ以外は［　　　　　　］にして置くような使い方。

(2)　――線②「宝」とありますが、これを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

辞書の中の、こまかい［　　］がついていることばの［　　　　　　　　］こと。

(3)　この文章で述(の)べられている内容(ないよう)としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　辞書を読むより、列車時刻表を読むほうが常識的だ。

イ　辞書を放ったらかしておくのは心ない人のすることだ。

ウ　辞書のおもしろさは、しらない語をよく読むことだ。

エ　実用派は、辞書でよく使われることばばかり引く。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講・確認テスト

次の中から対義語を選びなさい。

1 絶対
ア 反対　イ 相対
ウ 部分　エ 対応

2 減少
ア 加点　イ 過大
ウ 増加　エ 過分

3 理想
ア 現実　イ 想像
ウ 状態　エ 事件

4 解散
ア 群衆（ぐんしゅう）　イ 文集
ウ 集合　エ 集団

5 安心
ア 心労　イ 安全
ウ 放心　エ 心配

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講・熟語(じゅく)の構成、同音異義(いぎ)語、同訓異字

熟語の構成

◆熟語とは◆

熟語とは、二字以上の漢字を組み合わせてできた言葉のこと。多くの熟語は漢字二字で書き表される。

◆二字熟語の構成◆

①にた意味を表す漢字を組み合わせたもの

例　集合　道路　停止　出発

②意味が対(つい)になる漢字を組み合わせたもの

例　上下　明暗　進退　親子

③上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明しているもの

例　新人→新しい人　早朝→早い朝

再会→再び会う　代打→代わりに打つ

④上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表すもの

例　作文→作る文を　読書→読む書を

着陸→着く陸に　乗車→乗る車に

⑤上の漢字が下の漢字の意味を打ち消しているもの

例　不正　無休　未完　非礼

熟語の意味が分からなくても、漢字一字一字の意味と熟語の構成を考えれば、大体の意味を推測(すいそく)できることがある。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一　次の①～④の構成の熟語をあとのア～クから二つずつ選び、記号で答えましょう。

① 上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明しているもの。
② 上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表すもの。
③ 意味が対になる漢字を組み合わせたもの。
④ にた意味を表す漢字を組み合わせたもの。

ア 戦争　イ 勝負　ウ 消火　エ 天地
オ 美人　カ 加熱　キ 学習　ク 黒板

①□・□　②□・□
③□・□　④□・□

二　次の①～⑤の熟語と同じ構成の熟語をあとのア～コから二つずつ選び、記号で答えましょう。

① 登山　② 外国　③ 表現　④ 高低
⑤ 未定

ア 青空　イ 岩石　ウ 乗船　エ 無理
オ 増減　カ 行進　キ 昼夜　ク 着席
ケ 良心　コ 不安

①□・□　②□・□
③□・□　④□・□
⑤□・□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　［　］Ａ・Ｂの中から漢字を一字ずつ選び、次の構成になる漢字二字の熟語を三つずつ作りましょう。ただし、同じ漢字は二度使えません。

①　にた意味を表す漢字を組み合わせた熟語。
［　　］・［　　］・［　　］

②　意味が対になる漢字を組み合わせた熟語。
［　　］・［　　］・［　　］

③　上の漢字が下の漢字の意味をくわしく説明している熟語。
［　　］・［　　］・［　　］

④　上の漢字が動作や作用を、下の漢字がその対象を表す熟語。
［　　］・［　　］・［　　］

Ａ

登　夫　用　旧　計　乗　豊
勝　墓　絵　場　大　西　消

Ｂ

新　富　類　画　退　短　測
妻　火　敗　山　洋　石　群

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

同音異義語

漢字には、同じ読み方をするものがたくさんあるが、そのうち、音読みがまったく同じで、意味がちがう熟語のことを、同音異義語という。

例　カイホウ

人質（ひとじち）を［　　］する。

校庭を［　　］する。

病気が［　　］に向かう。

会員に［　　］が配られる。

例　コウエン

［　　］のベンチにすわっている。

公民館で芝居（しばい）の［　　］が行われた。

ノーベル賞科学者の［　　］を聞く。

同訓異字

同じ読み方をする漢字のうち、訓読みが、まったく同じで、意味がちがう字のことを同訓異字という。

例　とる

虫を［　］る。　手を［　］る。

例　きく

音を［　］く。　薬が［　］く。

例　とまる

［　］まる車が目に［　］まる。

※同訓異字を使って一つの文章にすると、覚えやすくなる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の――線のカタカナを漢字に直したものとして正しいほうを選び、記号に○をつけなさい。

①　街でアンケートにカイトウする。　ア　回答　イ　解答

②　ゲンシ時代の化石が見つかった。　ア　原始　イ　原子

③　いろんなことにカンシンを持とう。　ア　関心　イ　感心

④　キョウリョクな手助けが必要だ。　ア　協力　イ　強力

⑤　会社で健康ホケンに加入する。　ア　保健　イ　保険

五　次の――線のカタカナを漢字に直したものとして正しいほうを選び、記号に○をつけなさい。

①　待ち合わせをして友達とアウ。　ア　合う　イ　会う

②　説明するのに易（やさ）しい例をアゲル。　ア　挙げる　イ　上げる

③　あの男がすがたをアラワス時間だ。　ア　現す　イ　表す

④　わからなかった問いの答えをウツス。　ア　移す　イ　写す

⑤　生徒の安全管理に日々ツトメル。　ア　努める　イ　務める

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

六　次の――線のカタカナを漢字に直したものとして正しいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1)
① カイジョウの近くでチケットを買う。
② イベントのカイジョウは午前十時だ。
③ よく晴れてカイジョウはおだやかだ。

ア 海上　イ 階上　ウ 会場　エ 開場

① □　② □　③ □

(2)
① この鳥はセイチョウすると美しい声で鳴く。
② セイチョウのオスの羽の色は大変美しい。

ア 成長　イ 生長　ウ 声調　エ 成鳥

① □　② □

(3)
① 毎朝新聞を読むのがシュウカンになる。
② この機関紙はシュウカンで発行される。

ア 習慣　イ 週間　ウ 週刊　エ 終刊

① □　② □

七　次の――線のカタカナを漢字で書きなさい。

(1)
① 新学期から学級イインに選ばれた。
② 駅前に新しく歯科イインが開業する。

① □　② □

(2)
① 自分にジシンを持つことが大切だ。
② 自分ジシンが一番よくわかっている。

① □　② □

(3)
① 小学生をタイショウとしたイベント。
② 二人はタイショウ的な性格(せいかく)だ。

① □　② □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

八　次の――線のカタカナを、それぞれ漢字一字で書きなさい。

(1) 学校に毎日わすれ①モノをして来る②モノがいる。

①□　②□

(2) 夏の①アツい日に、②アツ着(ぎ)をして③アツいお茶を飲む。

①□　②□　③□

(3) ①ハヤく走ったら、②ハヤく目的地に③ツくことに気が④ツいた。

①□　②□　③□　④□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講●確認テスト

次のカタカナを漢字に直したものとして、正しいものを選びなさい。

１　その時感じたシンジョウを言葉にするのは難しい。

ア　信条　イ　身上
ウ　身上　エ　心情

２　このキカン、この道は通行止めだ。

ア　期間　イ　機関
ウ　基幹　エ　器官

３　責任をツイキュウする。

ア　追求　イ　追及
ウ　追究　エ　追給

４　平和維持活動にカンシンを持つ。

ア　関心　イ　感心
ウ　寒心　エ　歓心

５　新聞キシャになりたい。

ア　汽車　イ　貴社
ウ　帰社　エ　記者

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講・ベートーベン（伝記）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ルードウィヒは作曲がうまくいかず、父に相談した。

「いいか。あしたから、一歩も外に出るんじゃない。朝からずっとピアノの前にこしかけて、指から血が出るまで、ひきつづけるんだ。」

ヨハンはいった。

父はすぐれた歌手だけれど、作曲のことに関しては①父のいっていることはちがうんじゃないかと、ルードウィヒは思った。

でも、すっかり自信をなくしてしまっていたルードウィヒは、どうにでもなれと思った。それで、つぎの日は、朝からピアノの前にこしかけて、自分の曲だけをひきつづけた。

②ひきつづけているうちに、なんだかだんだんたいくつになってきた。おなじ曲をひくからたいくつというのではなくて、やっぱりこの曲自身が変化がすくなくてつまらないのではないかと、ルードウィヒは思った。

速度記号も発想記号も、わざと無視（むし）してひいてみた。＊和音も、わざとずらしてみた。

「……おもしろいよ。こっちのほうが。」

ルードウィヒは新しい五線紙をもってきて、さっそく、いまひいてみた曲を書きうつした。

何回もそうやってひき変え、書きなおしては、ネーフェ先生のところへもっていく。またしかられ、またなおす。いく日もいく日もそうやったあと、とうとうある日、ネーフェ先生がいった。

「ルードウィヒ、おめでとう。これならりっぱだよ。すてきな曲ができたね。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

そのときルードウィヒ＝バン＝ベートーベン、十二さい。その③はじめての曲が、『ドレスラーの行進曲の主題による九つの変奏曲（へんそうきょく）ハ短調』である。

〈畑山（はたやま）　博（ひろし）「ベートーベン」より〉

＊和音＝二つ以上の高さのちがう音が同時にひびいたときの音。

---

(1)　――線①「父のいっていること」とは、どのようなことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　苦しい思いを曲にするのが一番いいということ。

イ　作曲中はずっとピアノをひいているべきだということ。

ウ　作曲中は父以外の人間と会ってはいけないということ。

エ　作曲中は眠（ねむ）らずに、五線紙に曲を書きうつすべきだということ。

(2)　――線②「ひきつづけているうちに、なんだかだんだんたいくつになってきた」とありますが、なぜルードウィヒはたいくつになってきたのですか。文中の言葉を使って答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　――線③「はじめての曲」とありますが、ルードウィヒがはじめて作曲した曲についての説明としてふさわしくないものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ネーフェ先生の指導を受けて曲を完成させた。

イ　作曲をするときには、それまでに作曲した曲の速度記号や発想記号を無視したり、和音をずらしたりしてみた。

ウ　ルードウィヒが十二さいのときに完成した。

エ　作曲を始めてからほとんどすぐにできあがった。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

この時期、ベートーベンは、もう一つの大きなピンチにみまわれている。なぜだか理由はわからないのだけれど、ピアノや弦楽器（げんがっき）の低い音を聞くとき、それが、①まえのようにいい*ハーモニーになって聞こえないのだ。

*和音が、高いほうだけ耳に入って、低いほうがよく聞こえない。これは作曲家にとって、重大なことだった。

はじめ第一交響曲（こうきょうきょく）の作曲をしていて、そのことに気がついた。

②ベートーベンの作曲のやり方というのは、頭にうかんだ*主題をつぎつぎに頭のなかで発展（はってん）させていっきに書くというのとはちがっていた。

散歩のとちゅうや家にいるとき、とつぜん天のどこからかとびこんでくるようにして頭をしめつける*楽想がある。するとそれを、ベートーベンは、とっさに五線紙に書いておく。

そういうものが、前後の関係なしにたくさんあって、それを、あとで構成（こうせい）するのだ。

スケッチした譜面（ふめん）を、すぐにピアノでひいてみることがある。

そうすると、たったいま頭のなかで聞こえていた音と、③じっさいの音がちがうのだ。

「そんなばかな……。」

〈畑山（はたやま）　博（ひろし）「ベートーベン」より〉

*ハーモニー＝音のひびきあい。調和。
*和音＝二つ以上の高さのちがう音が同時にひびいたときの音。
*主題＝中心となる楽想やメロディ。
*楽想＝楽曲の構想。頭のなかにえがく楽曲のイメージ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「まえのようにいいハーモニーになって聞こえない」について、次の問いに答えなさい。

あ　――線①のことにベートーベンが気づいたのは、いつですか。「……をしていたとき。」に続くように、□にあてはまる言葉を文中からぬき出しなさい。

□□□□□□□□をしていたとき。

い　――線①と同様のことが書かれている一文を文中からさがし、初めの五字を答えなさい。

□□□□□

(2)　――線②「ベートーベンの作曲のやり方」とは、どんなやり方ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　頭にとびこんできた楽想をすぐに五線紙に書きとめておき、あとで集まったものを構成するやり方。

イ　思いついた楽想をとっさに五線紙に書きとめ、思いついた順にならべていくやり方。

ウ　思いついた主題をつぎつぎに頭のなかでひろげていき、集中していっきに書くやり方。

エ　最初に曲の構成を考えておいて、それに合う主題をいっきに考えていくやり方。

□

(3)　――線③「じっさいの音」とは、何の音ですか。文中の言葉を使って答えなさい。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講・確認テスト

次のカタカナを漢字に直したものとして、正しいものを選びなさい。

1　道でばったり友人にアった。
ア　在　イ　合
ウ　会　エ　有

2　夏休みのカダイが終わらない。
ア　過大　イ　課題
ウ　仮題　エ　花台

3　薬がキく。
ア　聞　イ　聴
ウ　効　エ　利

4　まどをアける。
ア　空　イ　開
ウ　明　エ　飽

5　席にツく。
ア　付　イ　突
ウ　着　エ　就

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講・短歌①（百人一首）

短歌

短歌とは、日本の定型詩である和歌の形式の一つ。

和歌には長歌、片歌（へんか）、旋頭歌（せどうか）など色々な種類があったが、短歌だけがうたいつづけられたため、今では和歌といえば短歌を指すようになった。

◆短歌の形式◆

「五・七・五・七・七」の三十一音からなっている。

初めの「五・七・五」を上の句（く）、後の「七・七」を下の句という。

（上の句）			（下の句）	
五	七	五	七	七
金色（こんじき）の	小さき鳥の	形して	いちょうちるなり	夕日の丘（おか）に
初句	二句	三句	四句	結句

- ・字余（あま）り　音数が三十一音より多いこと。
- ・字足らず　音数が三十一音より少ないこと。

◆表現技法◆

- ・倒（とう）置法　言葉の順序を逆（ぎゃく）にすること。
- ・比喩（ゆ）　ほかのものにたとえて意味をわかりやすくすること。
- ・体言止め　名詞（ものの名前）で語句をとめること。
- ・擬人法　人でないものを人にたとえること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

＝和歌（万葉集（まんようしゅう））＝

A

石走る（いわばしる）垂水（たるみ）の上のさわらびの
もえ出づ（ず）る□になりにけるかも
志貴皇子（しきのみこ）

（岩の上を水が激しく（はげしく）流れ落ちる滝（たき）のほとりに、わらびが芽を出す□がやってきたのだなあ。）

B

東（ひんがし）の野にかぎろひ（い）の立つ見えて
かへ（え）り見すれば月かたぶきぬ
柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）

（東の方の野には夜明けの光がさし始めるのが見え、西の方をふり返ると月がかたむき、しずもうとしている。）

＝近代短歌＝

C

金色の小さき鳥の形して
いちょうちるなり夕日の丘に
与謝野晶子（よさのあきこ）

D

街をゆき子どものそばを通るとき
みかんの香（か）せり冬がまた来る
木下利玄（きのしたりげん）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) Aの歌の□にあてはまる季節を答えなさい。

□

(2) Bの歌の「かぎろひ」とは何ですか。（　）の中から最もふさわしい言葉をぬき出しなさい。

□

(3) Cの歌について、次の問いに答えなさい。

① この歌によまれている季節はいつですか。

□

② この歌の鑑賞文（かんしょうぶん）として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　まぶしいほどの銀杏のまいがリズミカルにえがかれている。

イ　たくさんの鳥たちのにぎやかなまいが、かえって夕暮（ぐ）れのさびしさを感じさせる。

ウ　夕日に照り映（は）えてまい落ちる銀杏の葉の形と色を鳥にたとえて、秋の夕方のはなやかな美しさをえがいている。

エ　夕日の岡からながめた遠くの風景が美しい。

□

(4) Dの歌の「みかんの香せり」というのは、今の話し言葉では使われない言い方（文語）です。その意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　みかんを売っていた

イ　みかんのかおりがした

ウ　みかんのかおりがしなかった

エ　みかんを手わたした

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で作られます。千三百年以上も昔から作られ、今も多くの人々に親しまれています。自然の風景や気持ちが、それぞれの時代の言葉でうたいあげられてきました。

まず現代の歌人の作品を読みましょう。

Ａ　四万十(しまんと)に①光の粒(つぶ)をまきながら
　　川面(かわも)をなでる風の手のひら
　　　　　　　　　　　　俵(たわら)　万智(まち)

四万十川の水面に日ざしがふり注ぎ、②おだやかな川風が日ざしとたわむれるように川面にさざ波を立てています。「光の粒」「なでる」「手のひら」という言葉が、やわらかな音のひびきとリズムを作り出しています。

昔の人は、どのような情景(じょうけい)をよんだのでしょう。奈良(なら)時代の終わり（千二百年ほど前）には、『万葉集』という歌集が作られました。その中の一つに、次のような歌があります。

Ｂ　石走(いは（ワ）ばし)る垂水(たるみ)の上のさわらびの
　　萌(も)え出(い)づ（ズ）る春になりにけるかも
　　　　　　　　　　　　志貴皇子

わらびの新芽が、渓(けい)流のほとりで、たきのしぶきに当たってかがやいています。③春をむかえた喜びが、かろやかな水音と光の中で、生き生きとうたわれています。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　Ａの短歌に使われている表現方法を次の中から全て選び、記号で答えましょう。

ア　くり返し　**イ**　体言止め

ウ　倒置法　**エ**　擬（ぎ）人法

[　　]

(2)　――線①「光の粒」とは、どのような様子を表していますか。その様子を説明した次の文の[　]Ａ・Ｂにあてはまる言葉を、Ａは文章中から三字でぬき出し、Ｂは十字以内で考えて答えましょう。

日ざしがふり注ぐ川面に[Ａ]が立ち、[Ｂ]いる様子。

Ａ [　　　]

Ｂ [　　　　　　　　　　]

(3)　――線②「おだやかな川風」とありますが、川風がおだやかであることを表している言葉を、Ａの短歌の中から三字でぬき出しましょう。

[　　　]

(4)　――線③「春をむかえた喜び」とありますが、作者は何を見て春を感じているのですか。Ｂの短歌の中からぬき出しましょう。

[　　]

(5)　Ａ～Ｂの短歌には共通して感じられる音があります。それは何の音ですか。漢字一字で答えましょう。

[　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三 次の短歌と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

海恋(こい)し　潮(しお)の遠鳴り　かぞへ(え)ては
少女(おとめ)となりし　父母(ちちはは)の家

与謝野　晶子

【鑑賞文】

ふるさとをはなれ、都会ぐらしをするようになってから、ひさしいのです。ふるさとの海を、こいしくおもわずにはいられません。

わたしの家は、浜(はま)べにほど近いところにありました。風が潮のかおりをはこんできて、浜にうちよせる波の音がいつもきこえていました。

[A]、ゆめみるような少女のころをすごしたのでした。海のようにふかい父と母の愛をうけて、育ったふるさとなのです。

――生まれ育ったふるさとには、人それぞれに、なつかしい思い出があります。作者にとっては、ことに潮鳴りの音が、子守(こも)りうたのように、そしてまた少女をつつみこむやさしい音楽のように、こころにひびいたのでしょう。都会にいても、その音がきこえてきたことでしょう。

はじめに「海恋し」といいきって、ふかいおもいをあらわしました。

〈桜井信夫(さくらいのぶお)「はじめてであう短歌の本【心の歌Ⅱ】」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　——線「海恋し」とありますが、短歌の作者は、なぜこのように感じたのですか。鑑賞文の中の言葉を使って答えなさい。

(2)　鑑賞文の［A］に入る表現（ひょうげん）としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　そのよせる波を見つめながら
イ　そのよせる波をかぞえながら
ウ　その潮鳴りの音をききながら
エ　その潮鳴りの音をおもいうかべながら

(3)　この短歌の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　都会ぐらしを感じさせる言葉を用いて、ふるさとの生活と対比（たいひ）させている。
イ　子守りうたを「潮の遠鳴り」にたとえて表現している。
ウ　潮のかおりを表した言葉がたくさん使われている。
エ　短歌の最初に言い切りの表現を使って、ふるさとへの深い思いを表している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の短歌と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

①ガレージへ　トラック(ツ)ひとつ　入(い)らむ(ん)とす
少しためらひ(い)　入りて行きたり
斎藤(さいとう)　茂吉(もきち)

【鑑賞文】

まちなかを歩いていると、ちょうど、トラックがガレージ（車庫）へもどってきたところに、であいました。

いったん路上にとまったトラックは、バックして、ガレージにはいろうとします。それがいかにも、これでだいじょうぶかな、ぶつけずにバックできるかな、と、［　A　］が［　B　］のようにためらってから、すすっとはいったのです。

それを見とどけて、なんとなく、あれでいいんだなと、また歩きだしました。

――作者は、トラックそのものに、②じぶんの気持ちをうつしこんでいます。それが「少しためらひ(い)」のことばとしてあらわされました。この歌がよまれたころは、「ガレージ」も「トラック」も、あたらしいことばでした。短歌にはなりにくいような情景を、うつしとったのです。

〈桜井信夫(さくらいのぶお)「はじめてであう短歌の本【心の歌Ⅱ】」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「ガレージへ　トラックひとつ　入らむとす」とは、どのような様子をあらわしていますか。鑑賞文の中の言葉を使って答えなさい。

(2)　鑑賞文の［A］・［B］に入る言葉の組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A＝トラック　B＝生きもの
イ　A＝トラック　B＝機械
ウ　A＝ガレージ　B＝生きもの
エ　A＝ガレージ　B＝機械

(3)　――線②「じぶんの気持ち」とありますが、作者はこの短歌にどのような気持ちをうつしこんだのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　新しいものへのおどろきや感動を、読み手に伝えたい気持ち。
イ　新しいものが町にあることへのためらいを、読み手に伝えたい気持ち。
ウ　新しい言葉を使って短歌をよむことを楽しむ気持ち。
エ　新しい言葉を使って短歌をよんでいいものか、迷（まよ）う気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講・確認テスト

次の表現技法として正しいものを選びなさい。

1　ものごとをたとえることをなんといいますか。

ア　反復法　イ　比喩
ウ　倒置法　エ　連

2　同じ言葉をくり返すことをなんといいますか。

ア　反復法　イ　比喩
ウ　倒置法　エ　対句

3　言葉の順番を逆にすることをなんといいますか。

ア　比喩　イ　擬人法
ウ　倒置法　エ　対句

4　人でないものを人にたとえることをなんといいますか。

ア　比喩　イ　擬人法
ウ　倒置法　エ　対句

5　詩の一つのかたまり（文章でいう段落）のことをなんといいますか。

ア　比喩　イ　対句
ウ　くり返し法　エ　連

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講・短歌②、俳句（はいく）

一 次の和歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　秋来（き）ぬと目にはさやかに見えねども
　　風の音にぞおどろかれぬる
　　　　藤原敏行（ふじわらのとしゆき）

B　五月雨（さみだれ）の晴れ間にいでて眺（なが）むれば
　　青田すゞ（ず）しく風わたるなり
　　　　良寛（りょうかん）

C　駒（※こま）とめて袖（そで）打ちはらふ（う）かげもなし
　　さののわたりの雪の夕暮（ゆうぐれ）
　　　　藤原定家（ふじわらのさだいえ）

㊟　駒＝馬のこと。

---

(1)　Aの歌の——線「さやかに見えねども」の意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　さわやかには見えないけれど
イ　静かな感じに見えるけれど
ウ　だんだんはっきりと見えてきたけれど
エ　はっきりとは見えないけれど

□

(2)　Bの歌を、五・七・五・七・七の句（く）ごとに／の印を入れて区切りなさい。

五月雨の晴れ間にいでて眺むれば
青田すゞ（ず）しく風わたるなり

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) Cの歌は、色彩（しきさい）の対照が美しい歌です。何の色と何の色ですか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　茶色の駒と真っ白い雪の野原

イ　馬に乗る人の黒い姿（すがた）と真っ白い雪の野

ウ　赤く染（そ）まった夕焼けの空と辺り一面の雪

エ　遠くの山の緑と真っ白い雪の野原

［　　］

二

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　みちのくの母のいのちを①一目見ん（ひとめみん）
一目みんとぞ［　　］いそげる
斎藤茂吉（さいとうもきち）

B　夏の風山より来たり三百の
牧（まき）の若馬（わかうま）耳ふかれけり
与謝野晶子（よさのあきこ）

C　②くれなゐ（い）の二尺伸（の）びたる薔薇（ばら）の芽の
針（はり）やはら（わ）かに③春雨（はるさめ）のふる
正岡子規（まさおかしき）

D　晴れし空④あおげばいつも
口笛をふきたくなりて
ふきてあそびき
石川啄木（いしかわたくぼく）

(1) Aの歌について、次の問いに答えなさい。

あ　――線①「一目見ん一目みん」には、作者のどのような気持ちが表れていますか。「～気持ち。」に続く形で答えなさい。

［　　　　　　　　］気持ち。

い　［　　］にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　たしかに　　イ　なお

ウ　ただ　　エ　ただに

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2)　Bの歌について、次の問いに答えなさい。

この歌によまれている情景（じょうけい）として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　山からおりてきたたくさんの馬たちが風にふかれている。

イ　夏山に登ってさわやかな風を受け、喜んでいる馬たち。

ウ　山からふくさわやかな夏風に、若馬たちは気持ちよさそうにふかれている。

エ　山からふく冷たい風に、身のひきしまる思いで作者も馬もふかれている。

□

---

(3)　Cの歌について、次の問いに答えなさい。

㋐　――線②「くれなゐ」とはどんな色ですか。最も近い色を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　あわいピンク　　イ　あざやかな黄緑

ウ　こい赤　　エ　しずんだ黄色

□

㋑　――線③「やはらかに」は、薔薇の新芽の様子を表していますが、そのほかにも、もう一つの意味があります。何の様子を表していますか。「～様子」に続く形で答えなさい。

□様子

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) Dの歌について、次の問いに答えなさい。

㋐ ——線④「あおげば」の意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　見上げれば
イ　風を送れば
ウ　青ければ
エ　見つめると

□

㋑ この歌の鑑賞文として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　快晴の日の空を見ているとかえって悲しみが増し、口笛をふいてごまかしているさびしさが感じられる。
イ　毎日の苦労を忘れさせてくれる青い空に感謝の気持ちをこめて口笛をふくおだやかな春の日が目にうかぶ。
ウ　晴れわたった青空を見ていると、口笛をふいて遊んだ少年のころがなつかしく思い出される。
エ　口笛が得意なので、みんなに聞かせたくなっていつもふいてしまう気持ちがよくわかる。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

俳句

俳句とは、江戸時代の中ごろに成立した世界で最も短い定型詩で十七音から成り、季語がよみこまれている。

五　七　五
柿(かき)くへば　鐘(かね)が鳴るなり　法隆寺(ほうりゅうじ)
上の句　中の句　下の句

・字余(あま)り　音数が十七音より多くなること。
・字足らず　音数が十七音より少なくなること。

◆季語◆

季節を表す言葉。季節は旧暦(きゅうれき)によって分けられていて、「歳時記(さいじき)」にすべての季語がのっている。

春（一～三月）　のどか　彼岸　霞(かすみ)　朝寝　つばめ　かえる　よもぎ　雪解け　桜　たんぽぽ　つくし　卒業　花見

夏（四～六月）　梅雨、五月雨(さみだれ)　田植え　短夜　夕立　葉桜　若葉(わかば)　いちご　ほたる　うちわ　風鈴(ふうりん)

秋（七～九月）　天の川　七夕　名月　台風　赤とんぼ　雁(がん)　朝顔　すいか　りんご　柿　もみじ　すすき

冬（十～十二月）　寒さ　大みそか　時雨(しぐれ)　こがらし　七五三　ふとん　炭　風邪(かぜ)　クリスマス　落ち葉　白菜　枯(か)れ草

◆表現技法◆

・句切れ　意味や調子が切れる
名月や　／　池をめぐりて　よもすがら
・切れ字　「や」「かな」「けり」など、句切れを起こすことば

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三　次の文章と俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

俳句は、江戸(えど)時代、松尾芭蕉(まつおばしょう)がかつやくしたころ(三百三十年ほど前)にさかんになりました。五・七・五の十七音で作られ、季節を表す「季語」をよみこむ約束になっています。ただ、音数は、短歌の場合もそうですが、いくらか増減があってもかまわないことになっています。

A　古池や蛙(かはづ)(ワズ)飛びこむ水のおと　　松尾芭蕉

〈教科書書きおろしによる〉

---

(1) Aの俳句の中から季語をぬき出し、その季節を答えましょう。

季語 ［　　　　］

季節 ［　　　　］

(2) Aの俳句はどのような光景をよんだものですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア 大きな池のほとりでの光景。
イ 静かな池のほとりでの光景。
ウ 美しい池のほとりでの光景。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　この文章で述べていることとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　短歌や俳句には季節を表す「季語」をよみこむ約束がある。

イ　短歌や俳句には音数のきまりがあるが、必ずしもその音数でなくてもよい。

ウ　『万葉集（まんようしゅう）』が作られたのは千三百年以上も昔のことである。

エ　『万葉集』は松尾芭蕉により作られた歌集である。

四　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　名月や池をめぐりてよもすがら　　松尾芭蕉

（あまりに月が美しいので、池をめぐりながら見とれていたらとうとう一晩（ひとばん）過（す）ごしてしまったよ。）

B　雪とけて村いつ（っ）ぱいの子どもかな　　小林一茶（こばやしいっさ）

（雪に閉（と）じこめられていた長い冬がようやく終わり、春の陽（ひ）ざしに、雪が段（だん）々ととけていく。子どもたちは待ってましたとばかり外に遊びを楽しみ始め、村は子どもでいっぱいになった。）

C　赤とんぼ筑波（つくば）に雲もなかりけり　　正岡子規（まさおかしき）

D　夏の蝶（ちょう）日かげ日なたと飛びにけり　　高浜虚子（たかはまきょし）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) Ａ・Ｂの句の季語と季節を答えなさい。

Ａ　季語［　　］　季節［　　］

Ｂ　季語［　　］　季節［　　］

(2) Ｃ・Ｄの句の鑑賞文として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　色彩の対照が美しく、春ののびのびとした情景が思いうかぶ句。

イ　強い日ざしの快晴の夏の日、光の明暗を対照させた絵のような句。

ウ　秋の静けさが心にしみ、ふるさとへのなつかしさが伝わる句。

エ　秋晴れの澄（す）んだ空が目にうかぶさわやかな句。

Ｃ［　　］　Ｄ［　　］

五　次の俳句と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ａ　とどまれば①あたりにふゆる蜻蛉（とんぼ）かな　　中村汀女（なかむらていじょ）

【鑑賞文】

ふと立ち止まって空を見上げ、「まあなんと、こんなにたくさんのとんぼが飛んでいるのだわ」という句です。歩いていたときにも、とんぼの飛んでいたことは知っていました。とは言え、池があり、秋の草花があちらこちらにさく名園*ですから、ほとんどそのほうに注意が向けられていたのでしょう。立ち止まってはじめてとんぼの数多さに気がつき、まるで自分が立ち止まったために、とんぼが急にわき出してきたように感じたのです。

（鷹羽狩行（たかはしゅぎょう）「ジュニア版　目でみる日本の詩歌⑮　現代の俳句」より）

＊名園＝三溪園（さんけいえん）。横浜（よこはま）にある日本式庭園。作者がこの庭園をおとずれたときに作られた句。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

B　海に出て木枯（こがらし）②帰るところなし　　山口誓子（やまぐちせいし）

【鑑賞文】

「木枯」は、秋の終わりから冬の初めにかけてふく、北西寄（よ）りの季節風のことです。強い音をたてながらふきあれ、木々をふきからすことからこの名がつきました。冬の季語です。陸上をふきにふき、あれにあれた木枯（こが）らしも、やがて海上に出た。からすものも、さえぎるものもない海上を、当てもなくどこまでもふきわたっていく木枯らしには、もう、もどるべきところがない……。「帰るところなし」は木枯らしを人のように見た表現で、これによって、やがて消えうせるしかない木枯らしのなげきが、伝わってくるようです。

（鷹羽狩行「ジュニア版　目でみる日本の詩歌⑮　現代の俳句」より）

---

(1)　Aの俳句に使われている切れ字をぬき出しなさい。

[　　　]

(2)　——線①「あたりにふゆる蜻蛉かな」とありますが、なぜ作者は「蜻蛉」が「あたりにふゆる」と感じたのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　庭園の中でも、とんぼが多くいる池のまわりを歩いているから。

イ　作者の目は庭園の風景に向いていたので、立ち止まったときにはじめてとんぼの数の多さに気づいたから。

ウ　草花の中で立ち止まった作者におどろいて、蜻蛉が急にわき出してきたから。

エ　秋の草花を見て、はじめてとんぼが多く飛ぶ季節になったことに気づいたから。

[　　　]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　――線②「帰るところなし」の説明として、鑑賞文の内容にあてはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　木枯に対する人間の気持ちで、冬がやってきて外へ出られないことへの不満を表している。

イ　木枯に対する人間の気持ちで、強い木枯で家に帰ることができなくなる不安を表している。

ウ　木枯を人にたとえていて、海上に出てどこまでも行ける木枯の自由さが感じられる。

エ　木枯を人にたとえていて、海上に出て行くあてのない木枯のさびしさが感じられる。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講●確認（かくにん）テスト

次の言葉はいつの季語なのか答えなさい。

1　入学式
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

2　梅雨（つゆ）
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

3　大根
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

4　天の川
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

5　雪解け
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・大造じいさんとがん①（物語文）

一 題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

今年も、残雪は、がんの群れを率いて、ぬま地にやってきました。

①残雪というのは、一羽のがんに付けられた名前です。左右のつばさに、一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていたので、かりゅうどたちから、そうよばれていました。②残雪は、このぬま地に集まるがんの頭領らしい、なかなかりこうなやつで、仲間がえさをあさっている間も、油断なく気を配って、りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした。

大造じいさんは、このぬま地をかり場にしていましたが、いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のがんも手に入れることができなくなったので、いまいましく思っていました。

そこで、残雪がやってきたと知ると、大造じいさんは、今年こそは、とかねて考えておいた、特別な方法に取りかかりました。それは、いつもがんのえさをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、たにしを付けたうなぎばりを、たたみ糸で結び付けておくことでした。じいさんは、一晩中かかって、たくさんのうなぎばりをしかけておきました。今度は、③何だかうまくいきそうな気がしてなりませんでした。

翌日の昼近く、じいさんは、むねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晩、つりばりをしかけておいた辺りに、何かばたばたしているものが見えました。

「しめたぞ！」

じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

した。

〈椋鳩十（むくはとじゅう）「大造じいさんとがん」より〉

(1) ――線①「残雪というのは、一羽のがんに付けられた名前です」とありますが、残雪という名前が付けられたのはなぜですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2) ――線②「残雪は、このぬま地に集まるがんの頭領らしい」とありますが、残雪を頭領だと思う理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　常に仲間に気を配り、がんの群れを率いていたから。

イ　このぬま地をかり場としたころからずっといるがんだから。

ウ　ほかのがんに比べて体が一回り大きかったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) 大造じいさんと残雪の関係について、次の問いに答えましょう。

あ かりゅうどの大造じいさんにとって、残雪はどのような存在(そんざい)でしたか。「～存在。」に続くように、文章中の言葉を使って六字で答えましょう。

□□□□□□存在。

い あのように思う理由を文章中の言葉を使って答えましょう。

□

(4) ――線③「何だかうまくいきそうな気がしてなりませんでした」とありますが、この気持ちが行動となって表れている一文を文章中からぬき出し、初めの五字を答えましょう。

□□□□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

がんの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこがいちばん気に入りの場所となったようでありました。

大造じいさんは、①会心のえみをもらしました。

そこで、夜の間に、え場より少しはなれた所に、小さな小屋を作って、その中にもぐりこみました。そして、ねぐらをぬけ出して、このえ場にやってくる、がんの群れを待っているのでした。

あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れこんできました。

②ぬま地にやってくるがんのすがたが、かなたの空に、黒く点々と見えだしました。先頭に来るのが残雪にちがいありません。その群れはぐんぐんやってきます。

「しめたぞ！　もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは目にもの見せてくれるぞ。」

りょうじゅうをぐっとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど引きしまるのでした。

ところが、残雪は、油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやってきました。そして、ふと、いつものえ場に、昨日までなかった、小さな小屋をみとめました。

「③様子の変わった所に近づかぬがよいぞ。」

かれの本能（のう）は、そう感じたらしいのです。ぐっと急角度に方向を変えると、その広いぬま地の、ずっと西側のはしに着陸しました。

もう少しで、たまのとどくきょりに入ってくるというところで、またしても、残雪のために、④してやられてしまいました。大造じいさんは、広いぬま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

地の向こうをじっと見つめたまま、

「ううん。」

とうなってしまいました。

　今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にがんの来る季節になりました。

　大造じいさんは、生きたどじょうを入れたどんぶりを持って、鳥小屋の方に行きました。じいさんが小屋に入ると、一羽のがんが、羽をばたつかせながら、じいさんに飛びついてきました。

　このがんは、二年前、じいさんがつりばりの計略（りゃく）で生けどったものだったのです。今では、⑤すっかり、じいさんになついていました。ときどき、鳥小屋から運動のために外に出してやるが、ヒュ、ヒュ、ヒュと口笛をふけば、どこにいても、じいさんの所に帰ってきて、そのかた先にとまるほどに慣れていました。

　大造じいさんは、がんがどんぶりからえさを食べているのを、じっと見つめながら、

「⑥今年は、ひとつ、これを使ってみるかな。」

と、独（ひと）り言を言いました。じいさんは、長年の経験で、がんは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、⑦このがんを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと考えていたのでした。

〈椋鳩十（むくはとじゅう）「大造じいさんとがん」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「会心のえみをもらし」たときの大造じいさんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　がんがたくさんわなにかかったので喜んでいる。

イ　がんがたくさんえ場に集まってきたので喜んでいる。

ウ　え場近くに小屋を作ったことに満足している。

(2)　――線②「ぬま地にやってくるがんのすがたが、かなたの空に、黒く点々と見えだしました」とありますが、これは一日のうちのいつごろですか。

(3)　大造じいさんのきんちょうしている様子がもっともよく表現されている部分を、文章中から十六字でぬき出しましょう。

(4)　――線③「様子の変わった」とありますが、どのように様子が変わったのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(5)　――線④「してやられて」の意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　こちらの力を思い知らせて

イ　自信をなくして

ウ　うまくかわされて

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑤「すっかり、じいさんになついていました」とありますが、じいさんになついている様子がえがかれている文を二つぬき出し、それぞれ初めと終わりの五字を答えましょう。（、や。も一字に数えます。）

□□□□□～□□□□□

□□□□□～□□□□□

(7)　――線⑥「今年は、ひとつ、これを使ってみるかな」とありますが、じいさんは、がんのどのような特性を利用しようと考えたのですか。「～という特性。」に続くように文章中からぬき出しましょう。

□という特性。

(8)　――線⑦「このがん」とは、どうやって手に入れたがんですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・確認テスト

次の言葉はいつの季語なのか答えなさい。

１　入道雲
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

２　桜
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

３　小春日和（びより）
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

４　赤とんぼ
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

５　名月
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講・大造じいさんとがん②（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

がんの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきました。

「はやぶさだ。」

がんの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、はやぶさの目をくらませながら、飛び去っていきます。

「あ！」

一羽、飛びおくれたのがいます。大造じいさんのおとりのがんです。長い間飼い慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのでした。

はやぶさは、②その一羽を見のがしませんでした。

じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと、口笛をふきました。こんな命がけの場合でも、③飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、がんは、こっちに方向を変えました。

はやぶさは、その道をさえぎって、ぱあんと、一けりけりました。ぱっと、白い羽毛が、あかつきの空に光って散りました。がんの体は、ななめにかたむきました。もう一けりと、はやぶさがこうげきの姿勢をとったとき、さっと、大きなかげが空を横切りました。残雪です。

大造じいさんは、ぐっと、じゅうをかたに当てて、残雪をねらいました。が、何と思ったか、④また、じゅうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

〈椋鳩十「大造じいさんとがん」より〉

(1) ――線②「その一羽」とは、何のことですか。文章中から十三字でぬき出しましょう。

(2) ――線③「飼い主」とはだれですか。

(3) ――線④「また、じゅうを下ろしてしまいました」とありますが、その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 自分の力では、残雪をうつことはとても無理だと思ったから。

イ 残雪のすばやさに、どうしてもねらいが定まらなかったから。

ウ 残雪が、おとりのがんを助けようとしていることに気づいたから。

エ 残雪とはやぶさの戦いを、じっくり見物しようと思ったから。

(4) この文章の特ちょうを述べたものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア 出来事を、時間の経過（けいか）にしたがって細かく表現している。

イ 大造じいさんの心の動きをていねいに表現している。

ウ 大造じいさんのおとりのがんとはやぶさの戦う様子を、力強く表現（ひょうげん）している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい①相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのはやぶさも、空中でふらふらとよろめきました。が、はやぶさもさるものです。さっと体勢を整えると、残雪のむなもとに飛びこみました。

ぱっ

ぱっ

羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました。そのまま、はやぶさと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。

大造じいさんはかけつけました。二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、はやぶさは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よろめきながら、飛び去っていきました。

残雪は、②むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、③第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。それは、鳥とはいえ、いかにも頭領（とうりょう）らしい、堂々たる態（たい）度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期（さいご）のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。大造じいさんは、④強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。

残雪は、大造じいさんのおりの中で、一冬をこしました。春になると、そのむねのきずも治り、体力も元のようになりました。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ある晴れた春の朝でした。
⑤じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました。残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようでありました。が、
バシッ！
快い羽音一番。一直線に空に飛び上がりました。
らんまんとさいたすももの花が、その羽にふれて、⑥雪のように清らかに、はらはらと散りました。
「おうい、がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい、今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやってこいよ。そうして、おれたちは、

また、堂々と戦おうじゃあないか。」
大造じいさんは、⑦花の下に立って、こう、大きな声で、がんによびかけました。そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、はればれとした顔つきで見守っていました。
⑧いつまでも、いつまでも、見守っていました。

〈椋鳩十（むくはとじゅう）「大造じいさんとがん」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「相手」とは、だれ（何）ですか。

(2)　――線②「むねの辺りをくれないにそめて」とありますが、これはどんな様子を表していますか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　残雪が大きなけがをしている様子。
イ　残雪が戦いに勝った様子。
ウ　残雪が非常に興（こう）ふんしている様子。

(3)　――線③「第二のおそろしい敵」とはだれ（何）ですか。

(4)　――線④「強く心を打たれて」とありますが、大造じいさんは残雪のどんな様子に「強く心を打たれ」たのですか。文章中の言葉を使って、二十五字以内で答えましょう。

(5)　――線⑤「じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました」とありますが、何のためにそうしたのかを述べた次の理由のうち、ふさわしくないものを選び、記号で答えましょう。

ア　残雪の仲間をよび寄（よ）せるおとりにするため。
イ　残雪を仲間のところへ帰すため。
ウ　残雪とまた今年の冬、堂々と戦うため。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑥「雪のように清らかに」は、何のどんな様子を表していますか。

(7)　――線⑦「花」とありますが、どんな「花」ですか。文章中から十三字でぬき出しましょう。

(8)　――線⑧「いつまでも、いつまでも、見守っていました」とありますが、このときの大造じいさんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　これでまたいつか、残雪が仲間を連れてもどってくれれば、今度こそこちらの力を見せてやれる、と期待する気持ち。

イ　いっしょに一冬を過ごしたことで別れをつらく思いながらも、残雪の無事をいのるやさしい気持ち。

ウ　強力な敵を助けてやれたことの満足感と、残雪のすばらしさをたたえる気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講・確認テスト

次の□に当てはまる身体の一部を入れ、慣用句を作りなさい。

１　□が出る――お金が足りなくなること
ア　手　イ　足　ウ　頭　エ　目

２　□が軽い――おしゃべりであること
ア　口　イ　手　ウ　足　エ　鼻

３　□が空く――時間ができること
ア　足　イ　頭　ウ　手　エ　ひざ

４　□にかける――自慢（じまん）すること
ア　鼻　イ　手　ウ　足　エ　首

５　□をたてにふる――うなずくこと
ア　手　イ　足　ウ　頭　エ　首

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講・宮沢賢治①（伝記）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

宮沢賢治は、自分の理想とする世界を求めてはげしく燃え続けた、太陽のような人であった。人間も動物も自然も一つになって、心を通い合わせることのできる「まことの幸せ」がどこかにありはしないかと、生涯をかけてさがそうとした。

そのためには、自分の肉体がどうなってもいいと考えた。教師になって、自分の理想を説き、自ら農民になって土に生きる者の悲しみを知ろうとした。

しかし、①理想と現実はあまりにもちがいすぎた。宗教に学んでも、自然のふところに飛びこんでも、賢治のはげしい思いをとげることはできなかった。

それならば、せめて童話の中で自分の夢を実現したいと、身をけずる思いで作品を書き続けた。

②賢治童話の舞台は、目の前の林や野原であったり、風のふく山の中であったり、星のかがやく夜空であったり、いつもわたしたちの身近にある場所だ。それでいて、わたしたちをたちまち不思議な世界へ運びこんでくれる。まるで昔話のように、人も動物も精霊もいっしょになって登場する。

「ざしき童子のはなし」という短い童話がある。だれもいない家の中で、ほうきを使う音が聞こえてきたり、子どもたちが遊んでいると、いつのまにか一人増えていたりする話だ。こんなそぼくな話でも、幸せをよぶざしき童子に住みついてほしいと願う農民の思いがいきいきと伝わってくる。

〈西本鶏介「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　筆者は、宮沢賢治をどんな人だと考えていますか。それが分かる部分を文章中からぬき出し、初めと終わりの五字を答えましょう。

□□□□□～□□□□□

(2)　――線①「理想と現実」とありますが、「理想」と「現実」のそれぞれについて分かる一文の、初めの三字を文章中からぬき出しましょう。

理想　□□□

現実　□□□

(3)　賢治が童話を書き続けたのはなぜですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　理想を説きながら農民とともに生活をした現実を、童話の世界で表現したかったから。

イ　理想の世界と現実の世界のちがいを体験し、童話の中で理想とする世界を実現したかったから。

ウ　理想と現実のちがいを童話にしたいというはげしい思いがあったから。

□

(4)　――線②「賢治童話」とは、どのような童話ですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　身近な場所が舞台だが、どこか不思議な童話。

イ　身近な昔話のように、どこにでもあるそぼくな童話。

ウ　身近な場所に精霊などが登場し、少しこわい童話。

□

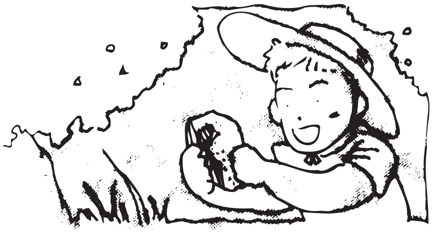
©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

賢治は、植物や石ころを集めるのが大好きな少年であった。盛岡(もりおか)中学校へ通うようになると、独(ひと)りで岩手山へ登り、植物や鉱石(こうせき)を採集(さいしゅう)しながら、自然のきびしさと豊(ゆた)かさを学んだ。

①中学を卒業しても、賢治には自然のみりょくがわすれられなかった。このまま家にいて、父の仕事を手伝おうという気持ちが起きてこないのだ。そのころ、たまたま読んだ宗教の本に深く感動した賢治は、店のあとをつぐより、いつか世の中のためになる仕事がしたいと考えるようになった。

一九一五年（大正四年）、賢治は、盛岡高等農林学校へ進学することを父から許(ゆる)された。中学時代に続き、野山をかけめぐり、地質(ちしつ)や土の科学調査(ちょうさ)と実験に打ちこんだ。



賢治は、学校にもどると実験室にとじこもり、持って帰った石のかけらや土をけんび鏡で調べた。単調な仕事にあきてくると、賢治は仕事のことをわすれて、石や土の不思議な模様(もよう)をながめた。

（②命のないものでも、こんなにすばらしい美しさを持っている。）

それは、美しい空想となって、どこまでも広がっていく。

（この美しさを文章にすることができたら、どんなにすてきだろう。）

賢治は、急に童話が書いてみたくなった。③その気持ちを詩にうたいたくなった。童話の中では、現実にできないことがいくらでもできる。現実には見えないものまで見ることができる。動物も人間も自由に言葉がかわせる。だれもが仲良くくらせる理想的な世界だってつくることができる。こうして、賢治は童話を書き始め、心にうかぶ思いを詩に書いた。

〈西本鶏介(にしもとけいすけ)「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 賢治はどのような少年でしたか。文章中からぬき出しましょう。

(2) ——線①「中学を卒業」したところ、賢治はどのようなことを考えるようになりましたか。文章中からぬき出しましょう。

(3) 賢治が(2)のように考えるようになったのは、どんなことがあったからですか。文章中の言葉からぬき出しましょう。

から。

(4) ——線②「命のないもの」とは、ここでは何を指していますか。文章中から三字でぬき出しましょう。

(5) ——線③「その気持ち」とは、どんな気持ちですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(6) 賢治は童話を書くことで、どのようなことができると考えたのですか。それが分かる部分の初めと終わりの十字をぬき出しましょう。（、や。も一字に数えます。）

〜

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講●確認テスト

次の□に当てはまる身体の一部を入れ、慣用句を作りなさい。

１　□が立つ――面目が立つこと
ア　頭　イ　体　ウ　顔　エ　足

２　□が早い――うわさなどをすぐに聞きつけること
ア　耳　イ　ロ　ウ　足　エ　目

３　□がうまい――だますのが上手なこと
ア　鼻　イ　ロ　ウ　目　エ　耳

４　□が黒い――心に悪だくみがあること
ア　した　イ　心　ウ　胸　エ　腹

５　□が棒になる――つかれはててしまうこと
ア　足　イ　手　ウ　ひじ　エ　目

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講・宮沢賢治②（伝記）

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

その後、一九二一年（大正十年）、稗貫農学校の教師になったが、童話や詩を書けば書くほど、きびしい自然の中で生きる①農民たちへの熱い思いがわいてくる。

（教師として、生徒たちをりっぱに育てることも大切な仕事である。だが、それだけで、本当の農民の苦しみは分からない。雨がふれば、大水で田んぼが流され、日照りが続けば、いねがかれるのをじっと見ているほかにどうすることもできない人たち。その人たちのことを思うと、このまま教師をしてはいられない。その人たちといっしょになって働き、その人たちのために、今すぐ役立たなくてはならないのだ。）

そう思うと、もうがまんができなかった。

一九二六年（大正十五年）、賢治は、校長や両親の止めるのをふり切って、きっぱりと教師をやめ、自ら農民として生きることを決心した。

賢治は、北上川のほとりの、林に囲まれたおかの上の家に、独りで住むことにした。この家は、妹のとし子が静養をしていた所である。とし子がなくなった後、ずっと空き家になっていた。

賢治は、大工さんにたのんで、いたみかけた土台を取りかえ、階下の部屋を造りかえてもらった。ここへ農民たちを集めて、新しい未来について話し合おうというのだ。二階は書さいにして、農作業のできない日は、読

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

書をしたり文章を書いたりすることにした。

　賢治は、この家にこしてくると、さっそくあれた土地を切りひらいて畑を作り、なす、かぼちゃ、きゅうり、トマトなどのなえを植えた。朝は暗いうちに起きだし、夜おそくまでどろまみれになって働いた。食べる物といえば、げん米とみそしると野菜ぐらいなもので、肉類はいっさい口にしなかった。ふろに入る代わりに、いど水で体をふいた。

　②こんなくらしをしていると、農民たちの苦労がいたいほどによく分かる。賢治にとっては、これまでのどんな生活よりもすばらしいものに思えてくる。この生活からは、人間のみにくい欲望（よくぼう）はいっさいわいてこない。自然のふところにだかれて、宗教（しゅうきょう）の教えを守り、農民たちのためにつくすだけである。

　ある日、農学校の卒業生が、この家にたずねてきたとき、賢治は破（やぶ）れたシャツ一枚（まい）でねむっていた。うでは、ぶゆにくわれてはれあがり、足首には、くわで切った傷口（きずぐち）があった。それなのに包帯もせず、ヨードチンキがぬってあるだけだ。

（どうして、こんなにまでして、自分自身を苦しめるのだろうか。）

卒業生は、賢治の変わり果てたくらしぶりにむねがいっぱいになった。やがて、目を覚ました賢治に、卒業生が言った。

「先生、その傷口からばいきんでも入ったらどうするのです。」

すると、賢治は、③わざと傷口をたたいてみせ、

「だいじょうぶ。おかげで、わたしも一人前の農民になることができそうだ。初めは、一時間も働くと体がいたくてたまらなかったが、今じゃ何時間働いても平気です。」

と言った。

〈西本鶏介（にしもとけいすけ）「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「農民たちへの熱い思い」とありますが、どのような思いですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　きびしい自然の中で働いてくれている農民への感謝（かんしゃ）の思い。

イ　きびしい自然の中で苦労している農民たちのために何かをしたいという思い。

ウ　きびしい自然に立ち向かっている農民たちの生き方にあこがれる思い。

(2)　賢治が教師をやめたときの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　教師がいやでたまらず、自由になりたいという気持ち。

イ　自分には教師の仕事は向いていないとあきらめる気持ち。

ウ　教師も大切だが、自分は農民になり、農民のために働きたいという強い気持ち。

(3)　教師をやめた賢治は、どこにある家に住みましたか。文章中からぬき出しましょう。

(4)　賢治は、次の部屋をどのような部屋として使おうとしましたか。それぞれ答えましょう。

㋐　階下の部屋

㋑　二階の部屋

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5) ――線②「こんなくらし」とありますが、賢治はどのようなくらしをしていたのですか。次の点について、それぞれ二つずつ簡単(かんたん)に答えましょう。

㋐ 賢治の働きぶりについて

㋑ 賢治の衣食住について

(6) (5)のようなくらしを、賢治はどのように考えていますか。文章中から二十字以内でぬき出しましょう。

(7) ――線③「わざと傷口をたたいてみせ」たのは、なぜですか。次の中からふさわしくないものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア 心配する卒業生を安心させたかったから。

イ 卒業生の言うことをばかげていると思ったから。

ウ 自分が一人前の農民に近づいたと示(しめ)したかったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講● 確認テスト

次の□に動物を入れてことわざを完成させなさい。

1　□も歩けば棒に当たる

ア　犬　イ　ねこ　ウ　豚　エ　牛

2　□をかぶる

ア　犬　イ　ねこ　ウ　鳥　エ　魚

3　月と□

ア　かめ　イ　つる　ウ　どじょう　エ　すっぽん

4　泣きっ面に□

ア　かぶと虫　イ　はち　ウ　みみず　エ　ちょうちょ

5　□の耳に念仏

ア　牛　イ　馬　ウ　犬　エ　ねこ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講・人間の覚悟（説明文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①「登山」という言葉を聞くと、私はいつも不完全な言葉のような気がします。なぜなら、登山した人は必ず下山をします。登ったきりで終わるわけではなく、山登りには必ず山下りというのがあって、登山に成功したなら今度は安全に下界までたどりついてはじめて「登山が成功」したことになるからです。

登頂することだけが②登山の目標ではない。きちんと安全かつ③優雅に山を下っていくことが、人間にとって大切なのだと私は思います。

重い荷物を背負ってひたすら頂上をめざしている最中は、下界をふりかえる余裕もなく勢いをつけて必死で登っていく。そこには、やがてあの峰に登れるのだと思える喜びがあります。しかしまた下りていくときには、何かを達成したという満足感と心のゆとりがうまれているはずです。

ゆったりと下界を眺めると、遠くに海が、あるいは北アルプスが、町並みが見えたりもする。「ああ、あれはあんなところにあったのか」と眼下の世界を*俯瞰しながら、自分の足元に目を移すと、高山植物が綺麗な花をつけている。「よくもこんな高いところで、可愛らしい、美しい花をつけるものだな」と小さな花を*めでたり、思いもかけず雷鳥を目にして、うれしくなったりするのだろうと思うのです。

〈五木寛之「人間の覚悟」より〉

＊俯瞰＝高いところから見おろすこと。
＊めでる＝美しさを味わい楽しむこと。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「『登山』という言葉を……気がします」とありますが、筆者はなぜ「不完全な言葉」と感じるのですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

「登山」とは□□□だけでなく、安全に□□□ができて、はじめて成功したことになると、筆者は考えているから。

(2)　――線②「登山の目標」とありますが、筆者の考える『登山の目標』としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　山の頂上めざして、ひたすら勢いよく登ること。

イ　山の頂上に登れなくても、安全に下りてくること。

ウ　山の頂上に登れなくても、優雅に下りてくること。

エ　山の頂上に登り、安全かつ優雅に下りてくること。

□

(3)　――線③「優雅に山を下っていく」とは、具体的にはどうすることですか。ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　何かを達成したという満足感をもって山を下りること。

イ　周りの景色を見る心のゆとりをもって山を下りること。

ウ　周りの景色を見る余裕もなく急いで山を下りること。

エ　美しい花やめずらしい鳥をめでながら山を下りること。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) この文章の要旨としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　登山の成功とは、周囲の景色を眺めながら登頂することである。

イ　登山の成功とは、頂上に登り、無事に下山することである。

ウ　達成感と満足感を得るためには、登山をすべきである。

エ　心に余裕のある人だけが、登山に成功することができる。

□

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そろそろ覚悟をきめなければならない。

最近、しきりにそんな切迫した思いがつよまってきた。

以前から、私はずっとそんな感じを心の中に抱いて、日をすごしてきていた。しかし、このところ、もう*躊躇している時間はない、という気がする。

いよいよこの辺で覚悟するしかないな、と諦める覚悟がさだまってきたのである。「①諦める」というのは、投げ出すことではないと私は考える。「諦める」は、「②明らかに究める」ことだ。はっきりと現実を見すえる。期待感や不安などに目をくもらせることなく、事実を真正面から受けとめることである。

では、「諦める」ことで、いったい何が見えてくるのか。

「絶望の*虚妄なることは、まさに希望と相同じい」と、魯迅は言った。絶望も、希望も、ともに人間の期待感である。その二つから解き放たれた目だけが、「明らかに究める」力をもつのだ。

〈五木寛之「人間の覚悟」より〉

*躊躇＝ためらうこと。

*虚妄＝うそ。真実ではないこと。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「諦める」とありますが、筆者の考える「諦める」としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　途中で投げ出さないこと。
イ　はっきりと現実を見すえること。
ウ　期待感や不安などに目をくもらせること。
エ　事実を真正面から受けとめること。

□

(2)　――線②「明らかに究める」とありますが、「明らかに究める」力をもつものとは何ですか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

人間の□□□である□□や□□から解き放たれた□。

(3)　この文章の要旨（ようし）としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人間は、最後まで人生を諦めずに努力することが大切だ。
イ　人生は短いので、ためらわずに行動することが必要だ。
ウ　人間には、くもりのない目で現実を直視する覚悟が必要だ。
エ　どんなときも生きる望みを失わないでいる覚悟が大切だ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講●確認テスト

次の□に動物を入れてことわざを完成させなさい。

1　一石二□
ア 虫　イ 鳥　ウ 牛　エ 馬

2　□にこばん
ア ねこ　イ 犬　ウ 馬　エ 豚（ぶた）

3　飼い□に手をかまれる
ア ねこ　イ 犬　ウ 馬　エ 豚

4　立つ□あとをにごさず
ア 馬　イ 犬　ウ ねこ　エ 鳥

5　井（い）の中の□、大海を知らず
ア 魚　イ くじら
ウ 蛙（かわず）　エ いるか

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講・花を食べる

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

湯飲み茶わんに、あわいピンクの八重桜の花がういている。桜湯である。めでたいことがあるときに、お茶の代わりに飲むとされているが、きみたちは飲んだことがあるだろうか。また、魚のさしみをもった皿に、小さなきくの花が置いてあることがある。これを食べたことがあるだろうか。あんなもの食べられるのかと思った人もいるだろう。あんなものどころか、そこには、日本人のちえがかくされているのである。そのちえとはどんなものかさぐってみよう。

日本は、年間を通して花が絶えることはない。その花の多くを、日本人は昔から、実に上手に食べてきた。どんな花を食べたかというと、桜やきくはもちろん、たんぽぽ、すみれ、つばき、ぼたんの花まで食べたのである。

きみたちのなかには、たんぽぽなら食べたという経験の持ち主がいるかもしれない。その人は、きっと山菜や薬草にくわしい人が身近にいて、たんぽぽを使った料理をしてくれたのにちがいない。①たんぽぽの料理には、花びらとエビのすみそあえ、花のてんぷらなどがある。また、わかい葉を使ったたんぽぽサラダや、根を使ったかきあげ、きんぴらがある。おどろくことに、たんぽぽご飯やたんぽぽコーヒーもある。これらは、根を細かくきざんだものを使う。

たんぽぽの花のてんぷらは、つんだばかりの花のうら側に、うすい衣をつけて、油であげる。てんぷらにすると、花の苦みもうすくなっておいしい。花

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を食べるといっても、わたしたちは、食べやすいようにいっそうのくふうをしているのである。これは、食べ方の[A]である。

では、花を食べることには、どんな意味があるのだろうか。

食べた花を調べてみると、花粉やみつには、リンや鉄、カルシウムのようなミネラル類や、ビタミン類が豊富にふくまれている。このため、花を食べることは、昔のそまつな生活のなかにあって、きちょうな栄養分をとる一つの方法になっていたことがわかる。

それればかりではない。花を食べることを通して、日本人は、食べられる花と毒の花、うまい花とまずい花、体のためによい花と食べ過ぎるとよくない花などを、正確に区別してきた。

そして、区別とともに、②**それぞれの花に合う使い道**を考えてきたのである。

まず第一は、薬として使う。ももの花やつぼみは、にょうがよく出るように。こぶしの花は、鼻の病気などを治すために。ふきのとうは、胃をじょうぶにするために、また、せきをしずめるために。

第二は、味として使う。つつじやさつきの花びらのすっぱい味。ふきのとうや菜の花の苦い味。花さんしょうのからい味。桜花や梅のつぼみのしぶい味など。

第三は、においとして使う。きく、桜、ゆず、しその花など、自然のかおりを楽しむ。

第四は、見た目を喜ばせるために使う。桜やももの花を湯にうかせて、その花ごと飲んだり、花びらの小さい花々を料理にそえたりする。

実に豊かな使い方、味わい方だと言うことができよう。

現代のわたしたちが食べる花は、桜やきくのような伝統的なものばかりではない。たとえば、ニセアカシアの花をすすめる人は、あまくてみりょく的なかおりと味を、年に一度は楽しみたいと言っている。てんぷらにしたり、バターいためにしたり、また、花をしごいて熱湯をかけ、サラダにしたりして食べ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ているそうである。

　このように、花を食べる日本の伝統的なちえは、今日にも受けつがれ、さらに発展(はってん)させられてもいる。むろん、③世界のどの国も、それぞれにすぐれた食文化をもっている。多くの花をいろいろな形で味わい、楽しむことは、日本人の育ててきたすぐれた食文化の一つである。それは、これからも生かしていくことが望まれるものである。

〈小泉(こいずみ)　武夫(たけお)「花を食べる」より〉

---

(1)　――線①「たんぽぽの料理」として筆者が挙げているものを次の中から全部選び、記号で答えなさい。

ア　花のてんぷら　　**イ**　葉のコーヒー

ウ　根のかきあげ　　**エ**　葉のサラダ

オ　根のすみそあえ

(2)　[A] にあてはまる言葉を、文中から平仮名(ひらがな)二字でぬき出しなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　花を食べることとは、栄養面ではどんな意味がありますか。次の文の[a]・bにあてはまる言葉を文中からそれぞれぬき出しなさい。

花には、リンや鉄、カルシウムなどの[a]や[b]が豊富にふくまれており、昔から人々のきちょうな栄養分となっていた。

a [　　　]

b [　　　]

(4)　――線②「それぞれの花に合う使い道」として正しいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　桜やさつきの花は、見た目を喜ばせるために使う。

イ　つつじや花さんしょうは、すっぱい味として使う。

ウ　ふきのとうは、せきをしずめるための薬として使う。

エ　梅やしその花は、自然のかおりを楽しむために使う。

[　　　]

(5)　――線③「世界のどの国も、それぞれにすぐれた食文化をもっている」とありますが、筆者が述べている日本のすぐれた食文化とは、どのようなことですか。文中から二十字前後でぬき出しなさい。

[　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　20]

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講・確認（かくにん）テスト

次の熟語（じゅくご）の組み立てとして正しいものを、あとからそれぞれ選びなさい。

１　通行
２　開会
３　青空
４　前後
５　乗馬

ア　似た意味の漢字を組み合わせたもの
イ　反対の意味の漢字を組み合わせたもの
ウ　上の漢字が下の漢字の意味をくわしくしているもの
エ　動作を表す漢字の下に「〜を」「〜に」という目的を表す漢字が来るもの

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答編

小学5年　国語〔基礎〕

第一講　少年たちの夏①（物語文）

一題目

(1)あ六月にはいってすぐの土曜日
い学校からの帰り道
(2)ア
(3)竹・一そう・いかだ

二題目

(1)エ
(2)ア
(3)イ

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 イ　3 ウ　4 イ　5 イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　少年たちの夏②（物語文）

一題目

(1) Aオ
Bア
(2) (例)渦をぬけて、そとにうかんでいたから。
(3) イ

二題目

(1) 満足していた
(2) Aア
Bウ
(3) どんなおとな
(4) (例)圭造がちゃんとした人間かどうかは、ぼくが決めることではないと思ったから。

〈確認テストの解答〉
１ ウ　２ エ　３ イ　４ エ　５ エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　春の数えかた（説明文）

一題目

(1)・一つ目　1

・二つ目　2　3　4

・三つ目　5

(2) A ア

B オ

(3) 4

二題目

(1) 季節　タイム・スケジュール

(2) イ

(3) 来年・前年・花の芽

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 ウ　3 エ　4 ア　5 ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　高層建築（こうそうけんちく）と五重のとう（説明文）

一題目

(1)千三百年以上前（のもの）
(2)あ材料（木材）
い木材の組み合わせ（木組み）
う屋根を支える仕組み
えしなやかさ（しなやかだ）
(3)イ

二題目

(1)はかいの力・きしみ
(2)Aエ
Bウ
(3)全体がしな ～ 強さを生む

〈確認テストの解答〉
1　ア　2　エ　3　イ　4　ア　5　ウ

第五講　文の組み立て

1、主語と述語

1
(1) イ
(2) ウ
(3) ウ

2
(1) エ
(2) エ
(3) イ

3
(1) 主語…イ　述語…エ
(2) 主語…イ　述語…エ
(3) 主語…×　述語…オ
(4) 主語…エ　述語…オ
(5) 主語…エ　述語…イ

4
(1) 主語…ア　述語…オ
(2) 主語…エ　述語…オ
(3) 主語…×　述語…オ
(4) 主語…エ　述語…オ
(5) 主語…ウ　述語…オ
(6) 主語…×　述語…オ

2、修飾語

1
(1) ア・イ・ウ（順不同）
(2) ア・ウ・エ（順不同）

2
(1) ①犬を　②かく
(2) ①ある　②わり引きが
(3) ①顔を　②見せる

3
(1) エ
(2) ア
(3) ウ

4
(1) ウ
(2) ア
(3) エ

〈確認テストの解答〉

1 ウ　2 エ　3 イ　4 ア　5 エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　詩

一題目

(1) ㋐ア
　㋑ウ
(2) 木の芽
(3) 冬・春

二題目

(1) ウ
(2) かなしみ

三題目

(1) Aウ
　Bイ
(2) 倒置法
(3) イ・エ（順不同）
(4) 雲の悲しみがわかる

四題目

(1) 夏休み・夕立
(2) ア・ウ（順不同）
(3) ウ

〈確認テストの解答〉

１　エ　２　エ　３　イ　４　エ　５　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　わすれ物・手紙（物語文）

一題目

(1) だれが…恵（が）
どこへ…純子の家（へ）

(2) イ

(3) 白い自動車・かかえこんでとびのく

(4) ア

二題目

(1) 八月十五日（終戦記念日・戦争が終わった日）

(2) エ

(3) ありのままのこと

(4) （例）自分は生きて帰れないだろうと思う気持ち。

(5) 例えば、自

〈確認テストの解答〉

１　ウ　２　ア　３　イ　４　エ　５　イ

第八講　新聞記事を読み比べよう

一題目

(1) ウ
(2) イ
(3) ア
(4) ㋐（例）検討すべき課題が多く残されている
　㋑（例）予想を大幅に上回る協力を得られた

〈確認テストの解答〉

1 エ　2 エ　3 イ　4 エ　5 エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　立場を決めて討論(とうろん)をしよう

一題目

(1) ア
(2) ・飲み物の温度を保てる(から)
・自分に合った量を用意できる(から)
(順不同)
(3) 七月一日の

二題目

(1) 賛成
(2) イ
(3) ・(例)かん境に良いこと。
・(例)飲み物の温度を保てる(ものがある)こと。
・(例)ほかの人の飲み物とまちがえることがないこと。
(順不同)
(4) (例)わたしは、このろん題に反対です。
なぜなら、水とうを持っていくと、荷物が重くなるからです。校外学習は、おべんとうなど持ち物がたくさんあり、よゆうがありません。
だから、わたしは、校外学習に飲み物を持っていくときに、水とうを使うべきだとは思いません。

〈確認テストの解答〉
1 エ　2 エ　3 イ　4 ア　5 ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　古文、漢文を読んでみよう

一題目

(1) おじいさん
(2) さぬきのみやつこ
(3) (例)根元の光っている竹が一本あったこと。
(4) イ
(5) ウ

二題目

(1) イ
(2) 春の夜の夢・風にふき飛ばされていくちり
(3) ウ
(4) ア

三題目

(1) 明け方(あけぼの)
(2) イ
(3) イ
(4) をかし

四題目

(1) (例)春の明け方
(2) 鳥の鳴き声
(3) (例)春のねむりがここちよかったから。
(4) (例)花は、いったい、どれくらい落ちたのだろうかということ。
(5) ア

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　エ　３　ア　４　エ　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　敬語（けいご）

一
①ア
②ウ
③イ

二
①イ
②ア
③ウ
④ア
⑤イ

三
①ウ
②ア
③イ

四
①お登りになる
②お帰りになった
③ご利用になった

五
①お聞きする
②お貸し（か）した
③おさがしする

六
(1)①めしあがる（お食べになる・食べられる）
②いただく（食べます）
(2)おわたしする（差しあげる）

七
①ア
②ウ

八
①言います
②話です
③感動しました

九
ウ

〈確認テストの解答〉
1　イ　2　ア　3　エ　4　ウ　5　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　注文の多い料理店①（物語文）

一題目

(1)（例）鳥もけものも一ぴきもいないから。
(2)（例）鉄ぽうでうつ音。
(3) イ
(4) 案内してき ～ たくらいの
(5) ア
(6) イ・ウ

二題目

(1) ただでごちそうする
(2)（例）太っていることと、わかいということ（の両方）。
(3) ウ
(4) ウ
(5) なかなかはやってる

〈確認テスト の解答〉

１　エ　２　ア　３　ウ　４　イ　５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　注文の多い料理店②（物語文）

一題目

(1) ①ア・イ・エ
②ア・エ
(2) A　ア
B　エ
C　イ
D　ウ
E　ア
F　オ
(3) A　店（の主人）
B　二人
(4) あ　イ
い　エ
う　ウ

二題目

(1) ア
(2) （例）部屋（戸）の中
（例）はらの中
(3) イ
(4) ウ
(5) ウ
(6) （例）子分
(7) ・あとは、あなたがたと、菜っ葉をうまく取り合わせて、真っ白なお皿にのせるだけです。
・そんならこれから火をおこしてフライにしてあげましょうか。
(8) 顔がまるでくしゃくしゃの紙くずのようになり
(9) ⑧親分
⑨二人（のしんし）

〈確認テストの解答〉

1　イ　2　ア　3　ウ　4　イ　5　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　ことばの教養

一題目

(1) 辞書・字引き

(2) ウ

(3) 初め……辞書のお

終わり…れない。

二題目

(1) 道具・放ったらかし

(2) 説明・日常よく使われる

(3) イ

〈確認テストの解答〉

１ イ　２ ウ　３ ア　４ ウ　５ エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　熟語の構成、同音異義語、同訓異字

一
①オ・ク
②ウ・カ
③イ・エ
④ア・キ

二
①ウ・ク
②ア・ケ
③イ・カ
④オ・キ
⑤エ・コ

三
①計測・豊富・絵画
②夫妻・新旧・勝敗
③墓石・西洋・大群
④登山・退場・消火
（それぞれ順不同）

四
①ア
②ア
③ア
④イ
⑤イ

五
①イ
②ア
③ア
④イ
⑤ア

六
(1)
①ウ
②エ
③ア
(2)
①ア
②エ
(3)
①ア
②ウ

七
(1)
①委員
②医院
(2)
①自信
②自身
(3)
①対象
②対照

八
(1)
①物
②者
(2)
①暑
②厚
③熱

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)
①速
②早
③着
④付

〈確認テストの解答〉

１　エ
２　ア
３　イ
４　ア
５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　ベートーベン（伝記）

一題目

(1) イ
(2) (例)曲自身が、変化がすくなくてつまらないから。
(3) エ

二題目

(1) あ第一交響曲の作曲(をしていたとき。)
　い和音が、高
(2) ア
(3) (例)スケッチした譜面を、ピアノでひいてみた音。

〈確認テストの解答〉
1 ウ　2 イ　3 ウ　4 イ　5 ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　短歌①（百人一首）

一
(1) 春
(2) 夜明けの光
(3) ①秋
②ウ
(4) イ

二
(1) イ・エ
(2) Aさざ波
B（例）きらきらとかがやいて
(3) なでる
(4) さわらび
(5) 水

三
(1) 海のあるふるさとをはなれ、都会ぐらしをするようになってから、長い時間がたったから。
(2) ウ
(3) エ

四
(1) 路上にとまったトラック一台が、ガレージにはいろうとしている様子。
(2) ア
(3) エ

〈確認テストの解答〉
1　イ　2　ア　3　ウ　4　イ　5　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　短歌②、俳句（はいく）

一

(1) エ
(2) 五月雨（さみだれ）の／晴れ間にいでて／眺（なが）むれば／青田すゞしく／風わたるなり／
(3) イ

二

(1) ㋐（例）母に早く会いたい（気持ち）
　㋑エ
(2) ウ
(3) ㋐ウ
　㋑（例）春雨がふる（様子）
(4) ㋐ア
　㋑ウ

三

(1) 季語…蛙（かはづ）
　季節…春
(2) イ
(3) イ

四

(1) A季語…名月
　季節…秋
　B季語…雪とけて
　季節…春
(2) Cエ
　Dイ

五

(1) かな
(2) イ
(3) エ

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　イ　３　エ　４　ウ　５　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　大造じいさんとがん①（物語文）

一題目

(1)(例)左右のつばさに、一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていたから。
(2)ア
(3)あいまいましい(存在。)
い(例)残雪が来るようになってから、一羽のがんも手に入れることができなくなったから。
(4)翌日の昼近

二題目

(1)イ
(2)(例)夜明け(早朝)
(3)ほおがびりびりするほど引きしまる
(4)(例)(いつものえ場に、)昨日までなかった小さな小屋があった。
(5)ウ
(6)・じいさんが ～ きました。
・ときどき、～ いました。
〈順不同〉
(7)(がんは、)いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ(という特性。)
(8)(例)(二年前に)つりばりの計略で生けどったがん。

〈確認テストの解答〉
１　イ　２　ア　３　エ　４　ウ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　大造じいさんとがん②（物語文）

一題目

(1) 大造じいさんのおとりのがん
(2) 大造じいさん
(3) ウ
(4) ア

二題目

(1) はやぶさ
(2) ア
(3) 大造じいさん（人間）
(4)（例）最期（さいご）のときを感じても頭領（とうりょう）らしく堂々としている様子。
(5) ア
(6)（例）らんまんとさいたすももの花の、空中にまい散る様子。
(7) らんまんとさいたすももの花
(8) ウ

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ア　３　ウ　４　ア　５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講　宮沢賢治（みやざわけんじ）①（伝記）

一題目

(1) 自分の理想 ~ のような人
(2) 理想…人間も
現実…宗教（しゅうきょう）に
(3) イ
(4) ア

二題目

(1) 植物や石ころを集めるのが大好きな少年
(2) (店のあとをつぐより、)いつか世の中のためになる仕事がしたい
(3) たまたま読んだ宗教の本に深く感動した(から)。
(4) 石や土
(5) (例)(石や土のような)命のないものでも持っているすばらしい美しさを、文章にすることができたらどんなにすてきだろうと思う気持ち。
(6) 童話の中では、現実に(現実にできないことが) ~ つくることができる。

〈確認テストの解答〉

1 ウ　2 ア　3 イ　4 エ　5 ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講　宮沢賢治②（伝記）

一題目

(1) イ
(2) ウ
(3) 北上川のほとりの、林に囲まれたおかの上の家
(4) ㋐（例）農民たちと新しい未来について話し合う部屋。
　㋑（例）農作業のできない日に読書をしたり文章を書いたりするための書さい。
(5) ㋐・（例）あれた土地を切りひらいて畑を作った。
　・（例）朝早くから夜おそくまでどろまみれになって働いた。
　㋑・（例）食べる物は、げん米とみそしると野菜ぐらいだった。
　・（例）ふろに入る代わりに、いど水で体をふいた。
　〈各順不同〉
(6) これまでのどんな生活よりもすばらしい（もの）
(7) イ

〈確認テストの解答〉
１　ア　２　イ　３　エ　４　イ　５　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講　人間の覚悟（説明文）

一題目

(1) 山登り・山下り
(2) エ
(3) ウ
(4) イ

二題目

(1) ウ
(2) 期待感・絶望・希望・目　（「絶望」「希望」の順番は逆（ぎゃく）でもよい）
(3) ウ

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　ア　３　イ　４　エ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十四講　花を食べる

一題目

(1) ア・ウ・エ(順不同)
(2) ちえ
(3) a ミネラル類
　b ビタミン類
(4) ウ
(5) 多くの花をいろいろな形で味わい、楽しむこと

〈確認テストの解答〉

1 ア　2 エ　3 ウ　4 イ　5 エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。